

石井方式 漢字の覚え方

熟語編

個々の漢字をよく知ったうえで、熟語としての用法を理解することがたいせつである。ここには、特に難解なもの、誤解しやすいもの、試験によく出題されるものを選んだ。

愛染 (アイゼン) 愛に染まる意。ボンゴ ボンノウ 梵語で煩惱のこと。

隘路 (アイロ) 狭くけわしい道。障害・難関の意味に使う。

悪行 (アクギョウ) 悪い行ない。

悪業 (アクゴウ) 悪い報いを招くような行ない。

悪食 (アクジキ) いかもの食いという使い方と粗食という使い方がある。

齷齪 (アクセク) × こせこせすること。気が小さい場合にも熱心な場合にも使う。
× 促 (アクセク) △

握力 (アクリョク) 物を握りしめる力。

浅茅 (あさぢ) × たけの低いちがや。

阿修羅 (アシュラ) × 戦いを好む神。梵語。

網代 (あじろ) 竹や木を編んで作る。魚を取るために水中にしかけるもの。

朝[△] 臣[△] (あそん) 公卿の姓名にそえる敬称。あざおみ↓あそみ↓あそん、となる。

圧 搾 (アッサク) 強い圧力を加えること。搾はしぼること。例 搾乳^{サクニユウ}

幹[×] 旋[×] (アッセン) 両方がうまくいくように間にはいつてとりもつこと。周旋^{シュウセン}。

軋[×] 轢[×] (アツレキ) 車がぎしぎしすることから、仲の悪いことを言う。

行 燈[△] (アンドン) 木のわくに紙を張って作った照明具。この音は唐音。

安 穩 (アンノン) 穏やかなこと。穩はオンだが安(an)のnがついてノン(non)。

塩[△] 梅 (アンバイ) 料理の味加減。転じて広く「ほどあい」の意味に使う。

(按配[×])

衣 装 (イショウ) 着物のこと。衣が上衣、裳が下衣。裳が常用漢字にないため、「衣装」が使われる。

委 嘱 (イショク) 人に委(ゆだ)ね任せること。委任。

逸[△] 物 (イチモツ) すぐれたもの。すぐれた人物やすぐれた馬を言うのに使う。

一 縷[×] (イチル) 一本の細い糸。今にも切れそうな有様を言う。例 一縷の望み(あぶないがわずかにある望み)

一 擲[×] (イツテキ) 一度に全部を投げ出すこと。例 乾坤一擲^{ケンコン}(運命をかけた大勝負をするときに使う)

一 臂[×] (イツピ) 片うで。例 一臂の力を借す

夷[×] 狄[×] (イテキ) 未開の民、野蛮人。外国人を軽蔑して言うのに使う。

衣 鉢 (イハツ) 師の僧が弟子に伝える衣と鉢。転じて、師から伝えるその道の奥義。

例 衣鉢をつぐ

湮[×] 滅 (インメツ) あとかたなくなってしまうこと。例 証拠湮滅

初[△] 産 (ういザン) はじめてのお産。

請負（うけおい）仕事を全責任をもって仕上げることに対し、一定の報酬を支払うとい

う契約。例 請負工事

鳥合（ウゴウ）からす鳥の集合が雁ガンのように統一も規律もないことから、統一も規律もない

ことを言う。例 鳥合の衆

胡散（ウサン）スジョウ素姓が疑わしいこと。胡は唐音。例 胡散臭い（なんとなくあやしい）

有情（ウジョウ）①情（愛情の心）のあること。②木石などの非情の物に対して、人

間や動物のこと。①は無情、②は非情に対して言う。

有頂天（ウチョウテン）仏教で言う九天の最上位。うまくいった喜びで夢中になる場合に

使う。例 有頂天になる

有無（ウム）あるのとないのと。例 有無相通する・有無を言わせず

胡乱（ウロン）胡散と同じ意。ロン乱は唐音。

温気（ウンキ）△暖かいこと、また蒸し暑いことを言う。

蘊蓄（ウンチク）×蘊は草を積む、蓄は草をたくわえるのが本義。じゅうぶんに研究して

深くたくわえた知識を言う。例 蘊蓄を傾ける

蘊奥（ウンノウ）×学問や技芸の極意（奥深いところ）。例 蘊奥をきわめる

英邁（エイマイ）×邁は進。才知が衆に抜き出てすぐれていること。

回向（エコウ）クドク自分の修めた功德を他に回し向かわす意から、読経などして死者の冥

福を祈ることを言う。

会釈（エシヤク）△軽く一礼すること。

壊疸（エソ）×人体中の一部の組織が破壊されて死んだ状態になる病氣。例 肺壊疸

円滑（エンカツ）円はまるい、滑はなめらか。物事が故障なくすらすらといくこと。

縁起（エンギ）①物事の起こり、由来。②吉凶の前兆。例 縁起が悪い・縁起をかつぐ

厭[×] 世(エンセイ) 厭はきらう。この世をいやなものに思うこと。

横[×] 溢(オウイツ) 溢はあふれる。横はかつて気ままの意。水がいっぱいにあふれ出るか

ら元気のひどく盛んなことを言う。

押 韻(オウイン) 韻をふむこと。詩の初め、または終わりに、同じひびきの音を置くこと。

謳[×] 歌(オウカ) 謳は声をそろえて歌うこと。ほめたたえることに使う。
例 青春を謳歌

する

奥 義(オウギ) 学問・技芸などの最も大事なところ。

押 収(オウシエウ) 差し押え取り上げる。

鳴[×] 咽(オエツ) むせび泣くこと。

悪[△] 寒(オカン) 発熱のために起こる寒け。

汚 穢[×] (オワイ) ①きたない物。②大小便。

音 叉[×] (オンサ) 音の共鳴の実験に用いる道具の名前。

音 頭[△] (オンド) 人の先に立って、あとに続かせること。転じて、大勢で歌いながら踊る

踊りを言う。

穩 便(オンビン) 物事をおだやかに扱うこと。

魁[×] 偉(カイイ) 体格や顔が人並みはずれて大きくたくましいこと。
例 容貌魁偉

開 豁[×] (カイカツ) ①度量が広いこと。②目の前が開けてながめのよいこと。

開 眼[△] (カイゲン) 仏道の真理をさとること。

開 鑿[×] (カイサク) 山野を切り開くこと。道や運河を通すことに用いる。

膾[×] 炙[×] (カイシヤ) 広く知れ渡っていることに使う。例 人口に膾炙される(膾はなます、

炙は焼肉、ともに人の口によくのぼる)

凱 × 旋 (ガイセン) 戦いに勝って帰ること。

開 闢 (カイビヤク) 天地の開け始め。

解剖 (カイボウ) 生物のからだを切り開くこと。転じて、物事の構造・作用などを細か

く分解・分析して研究することを言う。

傀 × 儡 (カイライ) あやつり人形。転じて、人の手先となって使われる者を言う。

乖 × 離 (カイリ) 乖はそむく。そむき離れる。

界 隈 × (カイワイ) あたり近所。例 銀座界隈

矍 × 鑠 (カクシヤク) 年をとっても元気の良いことを言う。例 矍鑠たる老人

角逐 (カクチク) おたがいに競争すること。角は競うこと (角力すもうの角)。逐は追う。

渴 仰 (カツゴウ) ①深く信仰すること。②深く慕うこと。渴はのどがかわくこと。のど

がかわいた人が水を求めるように信仰することを言う。

合 切 (ガツサイ) 何でもかんでもすべて。例 一切合切 イッサイ

割 烹 × (カッポウ) 割は切る、烹は煮る。食物を調理すること。

瓦 礫 × (ガレキ) 瓦かわらと小石。転じて、価値のないつまらない物の集まりを言う。

勘 案 (カンアン) 考え合わせることを。

官 衙 × (カンガ) 官庁。役所。

管 轄 (カンカツ) 権限によって支配すること。

緩 衝 (カンショウ) ニつのものの間に立って衝突 (不和) をやわらげること。

例 緩衝地帯

完 遂 (カンスイ) 完全にやりとげること。

含 蓄 (ガンチク) 意味に深みがあり、味わいのあること。

勘 当 (カンドウ) 悪行を責めて、親・教師が子・弟子デシの縁を切ること。

堪忍（カンニン）たえしのぶこと。他人の過失を許すことに用いる。

感応（カンノウ）心が物に感じて応ずること。

完璧（カンペキ）^{ヘキ}壁は宝玉。少しのきずもない玉の意から、欠点の全くない意味に用い

る。壁を壁と書かぬように注意。

勧誘（カンユウ）すすめ、さそうこと。

甘藍（カンラン）キャベツ。

帰依（キエ）すぐれたものを頼みとしてその力にすぎること。仏教用語。

義捐（ギエン）[×]捐は捨てる。慈善や公益のために私財を投ずること。今は「義援でこ

れを表わしている。

企画（キカク）計画を立てること。

揮毫（キゴウ）[×]筆をふるうこと。つまり、絵や字を書くこと。

希代（キタイ）希はまれ（稀）。世（Ⅱ代）にまれなこと。不思議なこと。

吉左右（キツソウ）[△]善悪・成否いずれかの知らせ。『よいたより』の意味に使うことが多

い。

気風（キフ）[△]気前。気風のなまり。例 気風がよい

企画（キト）計画。企て。

祈祷（キトウ）[×]神仏に祈ること。

危篤（キトク）病気が重くて、今にも死にそうな状態。

忌日（キニチ）命日。死んだ日付の日。供養をする日という意味。

華奢（カシャ）[△][×]上品で美しいが弱々しいことを言つ。

杞憂（キユウ）杞（^キ国名）の人が天が落ちてきはしないかと心配した故事による。心配

しないでよいことを心配すること。

嗅[×] 覚[×] (キウカク) においに対する感覚。
 厩[×] 舎[×] (キウシャ) 家畜小屋。

救[×] 恤[×] (キウジュツ) 恤はあわれむ。貧乏人や被災者を救い恵むこと。

翕[×] 然[×] (キウゼン) 多くのものが集まって一つになること。

糾[×] 明[×] (キウメイ) 悪事などを問い正し、罪状を明らかにすること。

凝 塊[×] (ギョウカイ) 凝は凍って固まること。こり固まったかたまり。

行 刑[×] (ギョウケイ) 刑を執行すること。

嚮[×] 後[×] (キョウコウ) 今後。これから先。

校[△] 合[△] (キョウゴウ) 写本・印刷物で、本文の違いをほかの本や原稿と比べ確かめること。

矜[×] 恃[×] (キョウジ) 自分の能力を信じていだく誇り。

行 者[×] (ギョウジャ) 仏道を修行する人。
シュキョウ

狂 奔[×] (キョウホン) 狂人のように走り回るという意味で、ある事に熱中して仕事をする
 ことに用いる。

杏 林[×] (キョウリン) 中国の名医董奉が治療費の代わりに杏を植えさせたら数年で林に
トゥホウ あんず

なったという故事から、医者のことを言う。

拳 措[×] (キョソ) 拳は手を上げる、措は手をおく。立ち居、ふるまい。動作の意味に使う。

許 諾[×] (キョダク) 相手の頼みを聞き入れること。

巨 擘[×] (キョハク) 親指のこと。転じて人よりすぐれた人の意味に用いる。

羈 旅[×] (キリョ) 旅。または旅人の意にも使う。

琴 瑟[×] (キンシツ) 琴の「こと」と大ごと。琴は五弦、のちに七弦となる。瑟は十五弦か
キン

ら二十七弦まである。

公[△] 達[△] (きんダチ) 貴公子。

均 霑[×]（キンテン）霑はうるおう。平等に利益を得ること。

久 遠（クオン）永遠。また、遠い昔のこと。

公[△] 家（クゲ）朝廷。また、朝廷に仕える者。

口 伝（クデン）秘伝などを口で伝えること。

句 読[△]（クトウ）文章の区切り。句点と読点^{トウ}。

求[△] 道（グドウ）仏の正しい道を求めること。

功 徳（クドク）①神仏からよい報いを与えられるような良い行ない。②神仏の恵み。

公[△] 方（クボウ）①公事。②朝廷。③幕府。

供 物（クモツ）神仏に供える物。

供 養（クヨウ）死者の霊に供え物をして、その冥福^{メイフク}を祈ること。

紅[△] 蓮[×]（グレン）まっかなはすの花。転じて、猛火のほのおの色のとえに用いる。

警[×] 咳[×]（ケイガイ）せきばらい。例 某氏の警咳に接する（親しく会うことを言う）

慧[×] 眼（ケイガン）物事の本質や裏面を見抜くすぐれた眼力。

炯[×] 眼（ケイガン）ぎらぎら光る目。慧眼の意味にも使う。

荊[×] 棘[×]（ケイキョク）いばら。転じて、困難の意に用いる。

景 仰（ケイコウ）徳を慕い仰ぐこと。

契 合（ケイゴウ）割符を合わせたように、二つの物がぴったりと合うこと。

形[×] 而下[×]（ケイジカ）①形を備えているもの。②感性的経験で知りうるもの。

形[×] 而上[×]（ケイジジョウ）①形を備えていないもの。②感性的経験では知りえない、有形の

現象の世界の奥にある究極的なもの。

傾 城[△]（ケイセイ）城を傾けるような美女。転じて、遊女の意味にも用いられる。

逆[△] 旅（ゲキリョ）逆は迎える。旅人を迎える所の意で、「旅館」。

下向（ゲコウ）低いほうへ下ること。都から地方へ行くことを言う。
懈怠（ケタイ）なまけること。

解脱（ゲダツ）俗世間の束縛・迷い・苦しみから抜け出して、悟りを開くこと。

下知（ゲチ）さしずすること。

結縁（ケチエン）仏道の因縁を結ぶこと。仏道に帰依すること。

激昂（ゲツコウ）激しく怒って興奮すること。

結紮（ケツサツ）血管をしばって、血行を止めること。

結繩（ケツジョウ）文字のなかった時代、なわの結び方で記録の代用をしたこと。

懸念（ケネン）気がかり。心配。

仮病（ケビョウ）病気のふりをして、人をだますこと。
例 仮病を使う

嫌悪（ケンオ）憎みきらいなこと。

衒学（ゲンガク）学問のあることを自慢し、見せびらかすこと。

減殺（ゲンサイ）殺はそぐ（へらす）こと。へらしそぐこと。

繭糸（ケンシ）繭と糸。また繭の糸。

顕正（ケンショウ）正しい仏理を明らかに示すこと。

顕彰（ケンショウ）隠れている良い事を世に表わし、また表彰すること。

喧擾（ケンジョウ）さわがしいこと。

還俗（ゲンゾク）憎が僧籍を離れて、俗人に帰ること。

言質（ゲンチ）あとで証拠となることば。
例 言質を取る ゲンシチ
「ゲンシツ」

は誤り。

権柄（ケンペイ）権力。また、権力で人を押えつけようとすること。

語彙（ゴイ）ある範囲、また広く一言語についての語の総体を言う。
例 農業語彙・基

本語彙（誤って俗に『単語』の意味に使われているので注意）

好悪[△]（コウオ）悪はにくむこと。好き嫌い^{いらい}。

梗概[×]（コウガイ）小説などの大要を短くまとめたもの。あらすじ。

狡猾[×]（コウカツ）悪がしこいこと。ずるい。

肯綮[×]（コウケイ）物事の急所。

口腔[×]（コウコウ）口からのどまでの間の口の中の空間。
例 口腔衛生（医学では『コ

ウクウ』と読む）

膏肓[×]（コウコウ）内臓の奥深い所。「病膏肓に入る」は容易に直らない重病になった

ことを言うことば。また、物事に夢中になっている者をひやかして言

うときに用いる。『ゴウモウ（盲）』と誤りやすい。

較差[△]（コウサ）最高と最低との差。『ガクサ』は慣用読み。

鋼索（コウサク）鋼（はがね）の針金をより合わせて作ったなわ。ワイヤロープ。

強奪（ゴウダツ）暴力で無理やりに奪い取ること。

拘泥[○]（コウデイ）こだわること。

更迭（コウテツ）その役目の人が変わること。また、人を変えること。

後図（コウト）あとあとのための計画。

攪拌[×]（コウハン）かきまわすこと。多く『ガクハン』と読まれている。

毫末[×]（ゴウマツ）毛の末端。わずかなことを言う。
例 毫末の疑いもない

劫掠[×]（ゴウリヤク）おどしかすめること。

五蘊[×]（ゴウン）人間を成り立たせている五つの要素。色・受・想・行・識を言う。

極悪（ゴクアク）このうえなく悪いこと。

虚空（コクウ）何もない空間。大空。

極月（ゴクゲツ）陰曆十二月の呼び名。

呱[×]呱[×]（ココ）赤子の「おぎゃあ」という泣き声。生まれることを「呱々の声を上げる」

と言つ。

居士[△]（コジ）僧にならず、家にいて仏弟子として修業する男子のこと。

固執（コシユウ）自分の意見をどこまでも主張し続けること。『コシツ』とも読む。

鼓吹（コスイ）意見などを盛んに主張して、相手に吹き込むこと。

克己（コツキ）自己に克（勝）つという意味で、欲望や邪念を押えること。

誤謬[×]（ゴビユウ）謬も誤り。

小兵[△]（コヒョウ）からだの小さいこと。

勤行[△]（ゴンギョウ）仏前に読経や回向をすること。

権化（ゴンゲ）権は仮^{かり}。神仏がこの世の人々を救うため、仮の姿で現われること。また

その化身^{けしん}。

今生（コンジョウ）この世。また、この世に生きている間。

紺青（コンジョウ）あざやかな明るい藍色^{あい}。

言上（ゴンジョウ）目上の人に向かって言うこと。申し上げること。

渾身[×]（コンシン）渾はおしなべる。からだ全体のこと。『満身』とも言つ。

混沌[×]（コントン）物事が入り混じって見分けのつかない有様を言う。

建立[△]（コンリユウ）寺院などを立てること。

彩色（サイシキ）色をつけること。色どり。

賽[×]銭（サイセン）神仏に参詣して上げる金。もとは、祈願成就^{シヨウシユ}のお礼に上げた金。

債務（サイム）金を払ったり、物を渡したりすべき法律上の義務。

錯誤（サクゴ）①誤り。②事実と観念と一致しないこと。例時代錯誤

搾取（サクシュ）しぼり取ること。

削除（サクジヨ）文章などのある部分を削り取ること。

早急[△]（サクキユウ）至急。『ソウキユウ』は誤り。

颯爽[×]（サツソウ）人の姿や態度がさわやかで勇ましい様子を言う。

早速[△]（サツソク）すぐさま。

雑駁[×]（ザツパク）知識・思想が雑然としていて、統一がないこと。

撒布[×]（サツプ）まき散らすこと。『サンブ』と慣用読みされている。

殺戮[×]（サツリク）むごたらしく殺すこと。

蹉跌[×]（サテツ）つまずくこと。

茶飯事[△]（サハンジ）日常のありふれたこと。だれでも、いつでもしていることだから。

傘下（サンカ）中心的な人物や勢力の支配や指導を受ける立場にあること。
例 総評傘

下の労働組合

参画（サンカク）計画の相談に参加すること。

鑽仰[△]（サンギョウ）聖人・偉人の学徳を仰ぎ尊ぶこと。誤って『讃仰』と書くことが多

い。

散華[△]（サンゲ）①仏を供養して花をまき散らすこと。②花と散るの意で、戦死を美化

して用いられた。

懺悔[×]（サンゲ）自分の行為の悪かったことに気づいてそれを悔い、神仏に告白すること。

参詣[×]（サンケイ）神仏におまいりすること。

残滓[×]（ザンシ）残りがす。『ザンサイ』と慣用読みされる。

参内（サンダイ）皇居に参上すること。

栈道[○]（サンドウ）山の崖の中腹に、棚のよう^{がけ}に設けられた橋^{たな}。また、絶壁から絶壁へ

かけ渡した橋の道。

参籠[×]（サンロウ）神社・仏寺に、ある期間こもって祈願すること。

思惟[×]（シイ）考えること。思考。

詩歌（シイカ）①漢詩と和歌。②詩や歌。

紫衣[△]（シエ）紫色の僧衣。

潮騒[△]（しおさい）潮が満ちて来るときの響き。

弛[×]緩（シカン）ゆるむこと。『チカン』は慣用読み。

直筆（ジキヒツ）代筆でなく、自分自身で書くこと。また、そうして書かれたもの。

嗜好[×]（シコウ）嗜はたしなむ（飲食物を口にすること）。『好み』という意味。栄養と

いうより好きて口にする物を『嗜好品』という。酒・タバコ・コーヒー・

茶などのたぐい。

示唆[×]（シサ）それとなく教えること。また、そそのかす意にも用いる（唆はそそのかす）。

『ジサ』とも読む。

使噓[×]（シソウ）噓はそそのかす。さしずしてそそのかすこと。けしかける。

四諦[×]（シタイ）四つの真理という意味の仏教のことば。迷いと悟りとの因果を四つに分

けて説明したもの。

悉[×]皆（シツカイ）残らず。皆。悉はことごとく。例 悉皆調査

湿気（シツケ）しめりけ。『シツキ』とも読む。

桎[×]梏（シツコク）手かせ・足かせ。自由を束縛するものを言う。

昵[×]懇（ジツコン）親しくつきあう間から。懇意。

嫉[×]妬（シット）やきもち。

櫛[×]比（シツピ）櫛^くの歯のようにぎっしり並んでいること。

諮問（シモン）意見を尋ね求めること。

折伏（シヤクブク）衆生（シュジョウ）を教化することの一方。悪人・悪法を威力をもってくじい

て仏法に従わせること。

寂滅（ジャクメツ）煩惱（ボンノウ）の境地を離れること。転じて、死ぬことに使われる。

娑婆（ツヤバ）釈迦（シヤカ）が教化する世界。転じて、人間の住む世界。俗世間。

執着（シユウジャク）強く心をひかれ、深く思い込んでどうしても忘れることができない

こと。

充塞（ジュウソク）満ちていっぱいになること。いっぱいに詰めること。

醜態（シュウタイ）みっともない態度。

羞恥（ツユウチ）恥じらい。

充填（ジュウテン）すき間なく物をつめること。

執念（シユウネン）執着の心。転じて、どこまでもやり抜く気持ちをも言う。

収斂（シュウレン）斂も収と同じ意。収め取ること。また縮むこと。また縮めること。

例 収斂剤

収賄（シュウワイ）賄賂（ワイロ）を受け取ること。

修行（シュギョウ）仏法を守って善行を積むこと。転じて、技芸（ミゲ）を磨き練ることを言う。

肅肅（シュクシュク）静かな様子。また、つつしむ様子。

衆生（シュジョウ）生命のあるすべての物。

入水（ジュスイ）水中に身投げして自殺すること。

出帆（シュッパン）船が港を出ること。帆（ほ）を上げて舟出（いねで）することから起こったことば。

出藍（シュツラン）「青（あ）は藍（い）より出（い）でて藍（あ）よりも青（あ）し」という荀子（ジュンシ）のことばから生まれ

たことば。弟子（デシ）が先生（せんせい）よりもすぐれていることのたとえに用いられる。

撞 × 木 (シユモク) 鐘を打ち鳴らすための棒。

呪 × 文 (ジエモン) まじない。またはのろいの文句。

須 × 臾 × (シユユ) わずかの間。しばらくの間。

腫 × 瘍 × (シユヨウ) はれもの。

修羅の巷 × (シユラのちまた) 戦場のことを言う。修羅はインドの鬼神阿修羅の略。

潤滑 (ジエンカツ) 湿っていて、なめらかなこと。摩擦を防ぐための機械油を潤滑油と

いう。

遵守 (ジユンシユ) 教えやきまりによく従い守ること。遵は順の意。

頌 × 歌 (シヨウカ) 神の栄光、君主の徳、英雄の功績などをほめたたえる歌。頌は顔容が

本義で、ほめたたえる意。

正覚 (シヨウガク) 最上の知恵。最高の悟り。

正絹 (シヨウケン) 本絹。ほかの繊維の混じらない絹だけの布。

上梓 × (シヨウシ) 図書を出版すること。昔は梓を版木として、これで印刷した。

成就 (シヨウジユ) 成しとげること。

情緒 (シヨウシヨ) 喜怒哀楽などの心の動きを誘い起こすような気分・雰囲気。シヨ

ウチヨは慣用読み。

蕭蕭 × (シユウシユウ) 物寂しく風が吹く様。また雨が降る様。蕭々 × (シユフシユク) とまちがえやす

い。

定席 (ジヨウセキ) ①決まった座席・場所 ②常設の寄席。

饒舌 × (ジウゼツ) 饒は食物があり余ること。よくしゃべること。おしゃべり。

装束 (シヨウゾク) 身じたくをすること。また、着物。

上 △ 人 (シヨウニン) 高僧。また僧侶の位。

相伴（シヨウバン）伴はつれ。①つれて歩くこと。②客の相手となつていっしょに接待を受けること。

成仏（ジヨウブツ）①悟りを開くこと。②死んで仏になること。③死ぬこと。

招聘[×]（シヨウヘイ）テイチョウ丁重な態度で人を招くこと。今は、「招待」を使うことが多い。

定法（ジヨウホウ）決まったおきて。いつもそうするに決まっている方法。

消耗（シヨウモウ）使つて減ること。また、減らすこと。もとは「シヨウコウ」だが、

今はこれが慣用されている。

從[△]容（シヨウヨウ）落ち着いた様子。例 從容として死につく

擾[×]乱（ジヨウラン）擾はみだす意。入り乱れること。また騒ぐこと。

涉獵（シヨウリョウ）涉は川を歩いて渡ること。獵のために川を渡つてあちこちと探り

回ること。広く書物を読みあさることに用いる。

所轄（シヨカツ）管轄する範囲。また、管轄と同じようにも使う。

贖[×]罪（シヨクザイ）罪をあがなうこと。キリスト教で、キリストがその死により全人類を神に対する罪の状態からあがなつた行為を言う。

殖産（シヨクサン）殖はふやす意。生産物をふやすこと。また、産業を盛んにすること。

財産をふやすこと。

辱知（ジヨクチ）知をかたじけなくするの意で、自分がその人と知り合いであることのへり下った言い方。

囑望（シヨクボウ）将来に望みをかけること。

属[△]目（シヨクモク）①氣をつけて見ること。②目に触れること。属は触の意。

書契（シヨケイ）文字で書かれたもの、また文字。契は刀で刻む意。最古の漢字は、亀

甲・獣骨に刻まれたもので、これを「契文」また「甲骨文字」と言う。

緒言（シヨゲン）前書き。緒は糸口。物事の初めの意。『チヨゲン』は慣用読み。
所作（シヨサ）作は行ない。行なう所。つまり、しわざ。ふるまい。身のこなし。
書肆（シヨシ）肆は施、物を並べる意で、店。書店。本屋。
食客（シヨツカク）一家に客の待遇で養われている人。俗に『居候（いそうろう）』。
所望（シヨモウ）望む所。望みとするもの。

緒論（シヨロン）本論にはいる準備のための説明をした部分。序論ともいう。『チヨロ

ン』は慣用読み。

白拍子（しらビョウシ）平安朝末期の歌舞の一種。また、それを舞う遊女。

而立（ジリツ）三十歳のこと。論語に、「三十にして立つ」とあることから。

熾（シレツ）熾も烈も、火勢の激しく盛んなこと。勢いの激しいことに用いる。

塵埃（ジンアイ）ちり、ほこり。

瞋患（シンイ）瞋も患も『いかり』。『シンニ』とも読む。

深奥（シンオウ）奥深いこと。似たことばに『深遠』がある。

真紅（シンク）まっかな色。深紅とも書く。

身口意（シンクイ）からだと口と心。日常生活のこと。

箴言（シンゲン）教訓の意を持つ短いことば。

参差（シンシ）長短不ぞろいな様。

真摯（シンシ）まじめ一方。摯は『手に執る』が本義。『真実』の意に仮借される。

斟酌（シンシヤク）斟はひしゃく。『酒をくみかわす』が本義で、『ほどよくする』。『手

心を加える』意味に用いられる。

進捗（シンチョク）物事がはかどること。例進捗状況（捗は正しくは、漢音がホ。陟

に慣用読みされた。陟は、丘（ヒ）に歩いてのぼる意で、はかどる意

がある)

滲[×]透(シントウ) 滲はしみ込む。透は通り抜ける。滲透はしみ通ること。滲が当用漢字

にないため『漫透』が代用される。

真如(シンニョ) 宇宙万有の実体。現実かつ永久不変の真理。

審判(シンパン) 事件を審理し判断する意味のことば。第三者的立場で判決を下す。『シ

ンパン』とも言う。

進物(シンモツ) 人にさし上げる物。贈り物。

辛辣[×](シンラツ) 味のからいことから、非常に手きびしい意味に使う。例 辛辣な批評

推敲[×](スイコウ) 詩や文章を良くしようとして苦心すること。唐の賈島^{カトウ}が「僧は推^おす月

下の門」がよいが、「僧は敲^{たた}く」とするがよいが苦心した故事による。

今、『推考』で代用するが、これでは全く味気ない。

遂行(スイコウ) 仕事をしとげること。よく『ヅイコウ』と読み誤られる。

水郷(スイゴウ) 水辺の村里。特に水辺のけしきのすぐれた有名な土地。『スイキョウ』

とも言う。

出師(スイシ) 軍隊を出すこと。師は軍隊。出は『だす』意味のときはスイと読む。

推薦(スイセン) 自分が良いと思う人や物を他人にすすめること。薦はすすめる意。今

これを『推選』で代用する者が多いが、意味が違ふ。

吹奏(スイソウ) 管楽器で演奏すること。

出納(スイトウ) 納は入れること。出し入れ。支出と収入。

枢機(スウキ) 枢はとびらの回転軸の仕掛けのこと。肝腎要^{カンシンかなめ}のたいせつな所という意

味に使う。また、重要な政務を言う。

崇高(スウコウ) 崇、は高い山。気高く、尊いことを言う。

誦 × 經（ズキョウ）経文を暗記して読むこと。

素性（スジョウ）①血筋。②育ち。③生まれつきの性質。『素姓』とも書く。①の場合

はこのほうがよい。

静穩（セイオン）静かで穏やか。何事も起こらず平和なこと。

静寂（セイジャク）ひっそりと静かなこと。

脆 × 弱（ゼイジャク）もろくて弱いこと。脆は脛が誤ったもの。脛はやわらかい肉のこと

で「もうい」意味に使われる。今の字体では「ギジャク」と読まれや

すいので注意。

井然（セイゼン）区画が井の字形にきちんと整っていること。

西漸（セイゼン）漸は少しずつ進む意。だんだんと西のほうに移っていくこと。

清澄（セイチョウ）澄みきって清らかなことを言う。

贅 × 肉（ゼイニク）贅はこのぶのこと。このぶは無用の肉であるから、太りすぎの意味に使う。

清冽 × （セイレット）冽はきびしい寒さを言う。身がひきしまるような清らかさ。

施エ（セコウ）工事を実施すること。

絶佳（ゼツカ）きわめてよいこと。佳は優良の意。

刺 △ 客（セツカク）暗殺する役目を持った人のこと。『シカク』『シキヤク』は慣用読み。

絶叫（ゼツキョウ）ありったけの声を出して叫ぶこと。絶は極端の意味。

殺 △ 生（セツショウ）①生き物を殺すこと。②残酷なこと。

截 × 断（セツダン）物を断ち切ること。截は切と同義。裁と読み誤る者が多いので注意。

雪隠 △ （セツチン）便所のこと。もと禪宗の用語。セツのツとイが重なってチになった。

刹那 × （セツナ）瞬間の意の梵語。

旋頭歌 △ （セドウカ）和歌の一体。五七七五七七の六句から成る。

宣下(センゲ) 宣旨(天子のおことば)を下すこと。

遷化(センゲ) 高僧や隠者が死ぬこと。

穿孔(センコウ) 孔は穴。穿は穴をあける。穴をあけること。また、あけた穴のこと。

鮮紅色(センコウシヨク) あざやかな赤色。浅紅色(ピンク色)と混同しやすいので注

意すること。

銓(センコウ) 銓はかりの分銅。衡はかりざお。銓衡はかりが本義。転じて人

物・才能をはかる意味に使う。今は、「選考」で代用している。

閃光(センコウ) 閃は、門の中に人をちらりと見ることで、「ちらつく」 「ひらめく」

意。閃光はパツと光った光。

前栽(センザイ) 庭先に植え込んだ草木。また、草木を植え込んだ庭。

穿鑿(センサク) 細かい点まで根ほり葉ほりして知ろうとすること。

詮索(センサク) 調べ求める。

漸次(センジ) しだいに。

先蹤(センショウ) 蹤は足のあとに従ってつく「足あと」。先蹤は先人の足あとの意

で、先例。今までにあった実例を言う。

先達(センダツ) 先にその道に達した「先輩」のこと。先に立って案内する人の意にも

用いる。

洗滌(センデキ) 滌は水をそそいですぐのこと。洗いすぐのこと。條に引かれて「ゼ

ンジョウ」と読むようになった。今は「洗淨」で代用されるが、これ

では「洗いすぐ」ではなくて「洗いきよめる」になる。

宣命(センミョウ) 昔の詔勅の一種。いわゆる宣命体で書かれている。

闡明(センメイ) 闡は門のとびらを片方(単)だけ開くこと。転じて「開明」する意。

はつきりしなかったことを明らかにすること。

憎[△] 悪 (ソウオ) 悪も憎む意。憎^{にく}み悪むこと。

総括 (ソウカツ) 括はくくる意。総^すべ括^くること。〃一括^{ひとく}とも言う。

総轄 (ソウカツ) 全体を総^すべ取り締まること。

造詣[×] (ゾウケイ) 造も脂^{いた}も到る意。学問や芸術の道に奥深く到達していること。

相好 (ソウゴウ) 相は人相。顔かたち。表情の意。例 相好をくずす (喜んでにこにこ

すること)

莊嚴 (ソウゴン) 莊は草[・]が盛 (壯[・]) んに茂る意。転じて、おごそかなこと。非常に威嚴

があつて重々しい意味。

雑言 (ゾウゴン) いろいろな悪口のこと。ゾウゲン^ンとも言う。

操作 (ソウサ) 操はあやつる、作^さは働き、仕事。機械などをうまく使つて仕事をするこ

と。

相殺 (ソウサイ) 殺^{サイ}はそぐ、削る。互いに削るの意。差し引きして帳消しにすること。

宗匠 (ソウショウ) 文芸・技芸に熟達して人に教えることのできる人。たとえば、俳諧^{カイ}

や茶道の先生など。

騷擾[×] (ソウジョウ) 騷^{ソウ}いで秩序を乱すこと。

簇生[×] (ソウセイ) 竹がひと所に群生するように、草木が群が^はつて生えること。

争奪 (ソウダツ) 奪い合い。

莊重 (ソウチョウ) おごそかで重々しい。

装填[×] (ソウテン) 物をこめること。例 弾丸を装填する・フィルムを装填する

壯図 (ソウト) 壮大な計画。

蒼氓[×] (ソウボウ) 人民。蒼^{ソウセイ}生^{あおひとぐさ}・青人草などとも言った。

総領（ソウリョウ）全体をまとめて管理する意のことば。家のあと取りのこと。長男。疎外（ソガイ）よそよしくて近づきにくいこと。

阻碍[×]（ソガイ）じゃまする。妨げる。今は「阻害」と代用している。

遡[×]及（ソキユウ）遡はさかのぼること。過去にさかのぼって効力を及ぼすことを言う。

「サツキユウ」とは読まない。

仄[×]聞（ソクブン）仄は側、^{かたわら}傍の意。間接的に聞くの意。今は「側聞」と書く。

素行（ソコウ）平素（ふだん）の行ない。

措辞（ソジ）辞（ことば）を措置するの意で、ことばの使い方。表現のしかた。

素地（ソジ）下地。もともになるもの。

塑像（ソゾウ）粘土や石膏で作った像。塑は土を削^{けず}（朔）る意。

措置（ソチ）措は手を置く意。始末をつけることを言う。処置。

素封家（ソホウカ）官職や領地は持たないが、財産だけはたくさんある者のこと。

忖度[△]（ソントク）寸も度も長さをはかること。忖は人の心をおしはかること。

存亡（ソンボウ）存在[・]できるか、滅亡[・]し去るか、ということ。

存命（ゾンメイ）命のあること、つまり、生きていること。

大官（タイカン）高官と同じ意。身分の高い官吏。

大逆（ダイギャク）道義にそむく最悪の行ない。主君や親を殺す行為を言う。

堆積[×]（タイセキ）堆は土の山、積は稲の山。物を上へ上へと積み重ねること。また、積

まれた物を言う。

逮捕（タイホ）犯人や容疑者をつかまえること。

多寡（タカ）多いか少ないか。寡は少と同じ意。

兌換[×]（ダカン）兌は換と同じ意。取り換えること。兌換紙幣は、正貨と取り換えること

ができる銀行券を言う。

他行（タギョウ）よそへ行くこと。

妥協（ダキョウ）妥は安らか、穏やかな意。お互いの主張を譲り合って穏やかに結論を出すことを言う。

拓殖（タクシヨク）拓は石器を手にして土地を切り開くこと。殖は殖産・殖民の意。未

開の土地を切り開いて田畑を作り定住すること。

諾否（ダクヒ）承諾するか拒否するか。

多言（タゲン）言（ことば）が多いの意で、おしゃべり。

他言（タゴン）他の人に言うこと。

情性（ダセイ）情は怠ること。情性はなまけぐせの意。物体が外力の影響を受けない
かぎり、現在の状態を続けようとする性質をいう。

蛇足（ダソク）蛇を描く競争をしたときに、足を書き加えたために負けた、という故事

から、〳〵余計なつけたし〳〵の意に用いる。

茶毗（ダビ）火葬（梵語）。茶と茶との違いに注意。

情力（ダリョク）情性の力。

弾劾（ダンガイ）罪や不正を調べ上げて、公開し、責任を問うこと。劾は追求の意。

探索（タンサク）探は手さぐり、索は求める。人を捜し求めること。

断食（ダンジキ）食を断つの意。修業のため、または療法として一定期間食べ物を食べないこと。

端緒（タンシヨ）端は物の切れはし、緒は糸口。ともに〳〵物のはし〳〵であるから、物事の初めを表わす。また、手がかりの意。

耽溺（タンデキ）耽は〳〵はなはだ〳〵、溺は〳〵おぼれる〳〵こと。悪いことにお

耽[×] 読[×] (タンドク) 夢中になって読み耽^ふけること。

堪[△] 能[×] (タンノウ) 堪^{カン}は堪^{カン}忍^{ニン}の堪^{カン}で、[〃]たえる(もちこたえる)が本義で、能と同じ意

がある。物事を巧みに仕遂げる能力のあること。カンノウが正しく、

タンノウは慣用。例 彼は書に堪能だ(わが国では、じゅうぶんに

満足する)の意にも使う。例 じゅうぶんに堪能した)

蛋白質[×] (タンパクシツ) 蛋[・]は卵[・]。卵[・]の白[・]味[・]のような物質[・]という意味のことは。

短兵急[×] (タンペイキュウ) 兵[・]は兵器、短兵[・]は短い武器。だしぬけに襲[・]うには短い武器のほ

うが役だつので、急襲[・]する[・]ことを短兵急[・]と言う。にわか、だしぬ

け、の意。

団 欒[×] (ダンラン) 欒[・]は棟[・](おうち)で喬木。夕方など木陰で涼を取るのに適している。

一家ひと所に集まってなごやかに楽しむことを言う。

鍛 錬[×] (タンレン) 錬[・](ねる)は金属を熱してやわらかくすること。鍛[・](きたえる)はそ

れを打ち固めること。これをくり返して金属はりっぱに成る。学問・

技艺に励むことのたとえに使われる。

地 殻[○] (チカク) 殻[・]は卵や実などの表面をおおっている[・]から[・]。地球の外表面の部分。

知 己[×] (チキ) 己^{おのれ}を知る者の意。自分の心をよく理解してくれる友人を言う。

逐 鹿[×] (チクロク) 魏徴の詩に「中原また鹿を逐^おう」の句がある。政権や高位を得ようと

して群雄の争うことをたとえたもの。今は、選挙戦にこの語を使う。

知 悉[×] (チシツ) 悉[・]は悉[・]皆[・](ことごとく)。知りつくす意。

褌[×] 奪[×] (チダツ) 褌[・]は衣をはぐこと。奪[・]は大鳥(隼)を横取りすること。官職などを取り

上げる意に用いる。

嫡流（チヤクリュウ）本家の家筋。転じて、正統の流派。

抽象（チエウシヨウ）抽は引き抜くこと。象は固有の形象。具体的な概念から、それに固有のものを引き抜き、全体に共通な属性を一般的な概念としてとらえること。

中枢（チュウスウ）枢は枢機を参照。最も大事な物・所を言う。例 社会の中枢・中枢

神経

抽籤（チュウセン）籤はくじ。くじを引くこと。今は「抽選」で代用している。

铸造（チュウゾウ）铸の本字は鑄型（いがた）にとかした金属を流し込んだ形を表わしている。鑄型で道具を造ること。

躊躇（チュウチュ）躊は足をとどめる、躇は佇（たたずむ）。進むか、退こうかと決心しかねて足を止めること。ためらう、ぐずぐずする意に使う。

厨房（チュウボウ）厨は料理場。房は部屋。台所のこと。

稠密（チュウミツ）稠は稲がよく茂ること。物のひどく込み合う意味に使う。例 人口稠密

弔慰（チヨウイ）死者をとむらい（弔）、遺族をなぐさめる（慰）こと。

重疊（チュウジョウ）疊も重なる意。いく重にも重なること。例 山岳重疊。また、このうえなく満足だという意味に使う。例 ご無事で何より重畳

寵臣（チュウシン）寵は天子に信頼されている臣の家のこと。部下を愛する意に使う。寵臣はお気に入り入りの部下。

彫塑（チヨウソ）彫刻と塑像（この項参照）。彫は木や石や金属をほること。

暢達（チヨウダツ）のびのびしていること。

超脱（チヨウダツ）俗事から高い境地へ抜け出ること。

打[△] 擲[×] (チヨウチャク) 擲はなぐる。打ったりなぐったりすること。
 掉[×] 尾 (チヨウビ) 掉は手を高く振り上げること。尾を振ることから、物事の終わりに至

って勢いをふるつことを言う。また、最後^レの意に用いる。ドウ

ビ^レは慣用読み。例 掉尾を飾る

重複 (チヨウフク) 同じ物事が二度以上重なること。ジウフクとも読む。

澄明 (チヨウメイ) 水の澄むのが本義だが、空気の澄み切っているのにも使う。

聴聞[△] (チヨウモン) 聴は聞こうとして聞く。聞は耳からはいつてくること。広く人

の話を聞く^レという意味。

凋落[×] (チヨウラク) 凋は寒氣^{あまね} (ゝ) が周く至つて草木のしぼむこと。花がしぼみ落ち

るように、勢力の衰えることを言う。

直截[×] (チヨクセツ) 直ちに切るの意。ためらうことなく決裁すること。また、回りくど

くない意に使う。『チヨクサイ』は載との類似から起こった慣用読み。

例 直截簡明

椿事 (チンジ)

椿^{チン}は珍^{チン}の意で、珍事。めつたに起こらないような、たいへんな
 できごとを言う。

椿は、わが国では春に先がけて花を咲かせる常緑樹の「つばき」の
 木のことだが、中国では、センダン科の落葉樹である。ところで、

莊子という本に出てくる椿^{チン}という木はまことに珍木^{チン}である。「八千歳をもって春とな
 し、八千歳をもって秋となす」と言うから、気の遠くなるような話である。いかにも

中国らしい話ではないか。



直轄（チョツカツ）直接に管轄すること。

鎮守（チンジュ）鎮は金属で作った重し。『文鎮』のように紙が散らないための押えと

するところから、『静め治める』ことを表わす。その土地を静め治め、

住民を守ること。また、そのための神。また、神社。

追憶（ツイオク）追は過去を追う意。昔のことを思い起こしてなつかしむこと。

対句（ツイク）対照的に並べられた二つの句。

追儼（ツイナ）儼は呉音、漢音は打で、人が鬼を打つの意。節分の夜、豆をまいて鬼（病

気などのわざわざいの象徴）を追い払う行事のこと。昔は、大晦日（みそか）に行

なった。

痛痒（ツウヨウ）痛みとかゆみと。例 痛痒を感じない（痛くもかゆくもない、つまり、

平気だという意味）

定款（テイカン）款は規約の箇条書き。会社などの組織や活動の根本規則。またそれを

書きしるしたもの。

庭訓（テイキン）家庭の教訓。しつけ。

遞減（テイゲン）遞は遞送の項参照。次々と減っていくこと。また、減らしていくこと。

抵抗（テイコウ）抵は手でおしのけること。抗ははりあうこと。外力にはりあい、それ

をおしのけようと努めること。

体裁（テイサイ）外から見える物の形や様子。外見。また、他人に対するみえ。

綴字（テイジ）ことばのつづり。スペリング。『つづり字』とも読む。

遞送（テイソウ）遞の呉音は代。代る代る行くが本義の字。宿駅では、馬を代えて、

次から次へと人や物を運んだ。これが遞送である。ゆえに、宿駅を駅

遞と言つ。

抵当(テイトウ) 抵は手が触れる、当たるの意味がある。相当するの意。借金の際、その金に相当する物を相手に渡す、その品物。

敵愾心(テキガイシン) 愾の漢音はキで、喟(ため息)が本義。慨に慣用される。敵に憤

慨(怒ること)してこれを倒そうとする心。

剔出(テキシュツ) 剔はえぐる。悪い所をえぐり出すこと。

覲面(テキメン) 覲は「見る」 人に会う意。覲面は「見ている面前」 転じて「すぐ

様」の意に用いられる。例 薬が覲面にきいた

剔抉(テキケツ) 抉もえぐること。人の秘密や欠点などをあばくことに用いる。

撤廃(テツパイ) 撤は取り除くこと。今まで行なわれてきた制度や法規などを取りやめ

ることに用いる。

添加(テンカ) ある物に何かをつけ加える。添える。

甜菜(テンサイ) 甜は舌に甘あまく感ずる意。甘い野菜の意で、砂糖大根とも言ふ。根

の汁から砂糖が取れる。

添削(テンサク) 添えるのと、削るのと。文章や答案などで、足りない部分は書き加え、

よけいな部分は削って、良いものにする。

篆書(テンショ) 漢字の書体の一種。楷書・隸書のもとになったもので、大篆と小篆

とある。今でも実印などに使われている。

恬淡(テンタン) 恬は心のどかなこと。あっさり(淡泊)としていて、ものに執着しな

い様を言う。

天誅(テンチュウ) 誅は責めとがめるのが本義で、処罰(極刑を含む)すること。天罰

の意。

■天竺(テンジク)■

インドのことを呼ぶ古い言い方である。また、「高い空」の意味にも使われた。ヨーロッパ人の渡来後は、遠い外国から来たもの

には、それに天竺の名を添えて呼んだものが多い。たとえば、ダ

リヤのことを「天竺牡丹」^{ボタン}、モルモットのことを「天竺鼠」^{ねずみ}と名

づけたなど実にみごとであり、おもしろいではないか。ほかに、「天竺葵」^{あおい}「天竺

木綿」^{モメン}などのことばがある。

しかし、「天竺味噌」^{ミン}というのは、「唐(中国の呼び名)すぎる(辛すぎる)」^{カラ}のし

やれで、辛子を入れたみそに、唐より遠い国の天竺をつけたものである。これまた、

みごとな名づけ方ではないか。「天竺浪人」とは、青い目の浮浪者かと思われる

ないが、単なる浮浪者にすぎない。家を逐電(逃げ出すこと)した、つまり「逐電浪

人」を逆にして、「天竺浪人」としたものである。



奠[×]都(テント)都を定めること。奠は神前に酒を供えるのが本義。神意によって大事を

定めるの意。

伝播[×](デンパ)播は種をばらまくこと。電波の広がり伝わることを言う。

天稟[×](テンピン)稟は稲を囲いおく所が本義だが「受ける」の意に仮借される。天から

受けたもの。つまり「天性」。

添付[×](テンプ)書類などに、ある物を添えること。

貼付[×](テンプ)写真などを書類にはりつけること。正しくは「チョウフ」と読む。

顛[×]末(テンマツ)顛は頭の頂。初めから終わりまでの意で、「事の一部始終」全体の有

様。

天佑[×](テニュウ)佑も佐も「助ける」。左手は右手を助け、右手は左手を助ける。「天

佑神助」天の助け、神の助け。

偷[×] 安(トウアン) 偷^{トウ}は盗(ぬすむ)。安きをぬすむの意で、将来を思わず安樂をむさばること。

統括(トウカツ) 統は一つにまとめる。括はくくる。ばらばらのものをまとめて一つにくくること。

投函[×] (トウカン) 函は箱。箱に入れるの意で、郵便物をポストに入れること。

騰貴[×] (トウキ) 騰は宿場馬[●]が本義。登の意に使う。値段の上がることを言う。

刀圭[×] (トウケイ) 薬をもるさじのことで、医術の意に用いる。医者のことを「刀圭家」と言う。

憧憬[×] (ドウケイ) あこがれ。正しくは「ジョウケイ」。

踏査[×] (トウサ) 現地を踏^ふんで調査する意。

洞察[×] (ドウサツ) 洞はほら穴、突き抜ける意を借りて、「見抜く」こと。察は注意して

見ること。

透写[×] (トウシャ) 透は通り抜けるが本義で、すきとおる意に使う。すき写し。

謄写[×] (トウシャ) 謄[●]は言(ことば)を重ねる。原本のままを写し取って、同じ文のものを重ねて作ること。できたものを「謄本」と言う。

踏襲[×] (トウシュウ) 襲は重ね着が本義。くり返す意を借りて今までのやり方をそのまま踏[●]んでくり返すこと。

淘汰[×] (トウタ) ①不用・不適のものを排除すること。②生存競争により環境に適応しない種が死滅し適応するものだけが残ること。

投擲[×] (トウテキ) 擲は投げ打つ。円盤投げ、砲丸投げなどを投擲競技と言う。

蕩蕩[×] (トウトウ) ①広くて大きい様子。②穏やかな様子。のどかな様子。

滔滔[×] (トウトウ) ①水が盛んに流れる様。②よどみなく話すこと。

陶冶[×]（トウヤ）陶器を作り鑄物をいることだが、才能や性質などをねってりっぱに作り上げることを言う。

棟梁[×]（トウリョウ）棟はむね。梁ははり。家をささえる重要な部分であるところから、

家をささえ、国をささえる重任にある人と言う。例 一国の棟梁

頭領（トウリョウ）多くの者の上に立つ人。かしら。

読経[△]（ドキョウ）声を出してお経を読むこと。【参照】看經

読誦[×]（ドクジュ）声を出してお経を読むこと。

独壇場（ドクダンジョウ）その人だけが活躍する場所。ひとり舞台。独壇場を誤って壇にし、このことができた。擅は手中に独占する意。ほしのままにする。

匿名（トクメイ）匿はかくす。自分の名前をかくして知らせないこと。例 匿名の投書

屠殺（トサツ）屠は家畜を殺すこと。肉や皮を取るために獣類を殺すこと。

屠蘇[×]（トソ）屠蘇散をひたした味醂^{ミリン}。独特の香氣があり、不老長寿の効があるとして正

月の祝い酒にする。

土壇場[△]（ドタンバ）首切りの刑場のこと。転じて物事の決定しようとする最後の瞬間・場所。

所。

咄嗟[×]（トッサ）咄は口から出すチェツという舌打ちの声。嗟はああと嘆く声。ごく短い

時間のことを言うのに用いる。例 咄嗟に身をかわす

訥弁[×]（トツベン）訥はことばが内にこもって外に出ないこと。どもる。つかえつかえ

しゃべる話し方と言う。話しべた。【反対】能弁

怒濤[×]（ドトウ）濤は大波。激しく荒れ狂う大波。例 さかまく怒濤

驚馬[×]（ドバ）驚はのろい馬。【反対】駿。才能のにぶい人のたとえ。例 驚馬に鞭打つ^{むち}

頓挫[×]（トンザ）頓は頭を地につける。ふつう、急に、にわかに、の意に用いる。挫は手

を折る（坐は足を折る）。今までうまく進んできた物事が急にくじけること。

頓[×]首（トンシュ）中国の礼では、頭を地につけて敬意を表わした。手紙の終わりに頓首

と書いて敬意を表するわけ。

頓[×]智（トンチ）機に応じて直ちに働く知恵。

貪[×]婪（ドンラン）貪は財をむさぼる。婪は女に対してつつしみが無い。何でもほしが

欲望に際限のないこと。

捺[×]印（ナツイン）捺はおす。印をおすこと。

納[×]得（ナットク）心の中におさめるの意で、他人の考え・行為を理解し、もっともだと

認めること。

軟禁（ナンキン）やわらかい監禁の意で、身体は拘束しないが、外部との交渉を

断つこと。

難[×]渋（ナンジュウ）筆がすらすらと進まぬことや物事がはかどらぬことをいう。

納[△]戸（ナンド）納め置く所の意で、家財・衣服・調度などをしまって置くへや。

難[×]破（ナンパ）難に遭^あって破れるの意で、船が暴風に遭って破損し、航行できなくなる

ことを言う。

肉腫[×]（ニクシュ）体内の組織に生ずる悪性の腫瘍（はれもの）^{・ヨウ}

憎[×]体（にくテイ）憎らしげなこと。

入[△]声（ニツシヨウ）漢字の古い四声の一つ。促音。今の表記で、小さく「つ」と書くも

の。字音がなづかいで、^{ガツコウ}「ブクツチキ」になるもの。甲^{カフ}（甲板）^{カッパン}・学^{ガク}

（学校）^{タツ}・達^{タツシヤ}（達者）^{キチ}・吉^{キツボウ}（吉報）^{テキ}・敵^{テッキ}（敵機）。

鈍[△]色（にびいろ）淡いねずみ色。

入寂（ニユウジャク）憎が死ぬこと。

柔和（ニユウワ）人相や性格がおだやかでやさしいこと。

如意（ニヨイ）意の如しの意で、物事が思いのままになること。

如来（ニヨライ）仏のこと。真如（一一五ページ参照）より来るの意。

刃傷（ニンジョウ）刃物で人を傷つけること。

忍辱（ニンニク）恥を耐え忍んで、心を動かさないこと。

捏造（ネツゾウ）捏は土をこねること。粘土で器具を造るの意から、根も葉もないこと

をでっち上げることを言う。

涅槃（ネハン）梵語。いっさいの煩惱から解脱した不生不滅の高い境地。

粘液（ネンエキ）粘り気のある液。

年貢（ネング）年々の貢物の意で、租税や小作料を言う。

捻出（ネンシュツ）ひねり出すの意で、出さうにもないところからなんとかして出すこ

とを言う。

把握（ハアク）把も握も、にぎる、つかむの意。理解することの意に用いる。

胚芽（ハイガ）胚は胎内の子。植物の種の中で将来成長して芽となる部分。

陪審（バイシン）審議に陪席するの意で裁判に民間人の関与する制度。

排斥（ハイセキ）おしのけ（排）しりぞける（斥）こと。

排泄（ハイセツ）泄はもらすこと。動物が不要になったものを体外に出すこと。

俳壇（ハイダン）俳句を作る人々の社会。

莫逆（バクギャク）逆らうことなしの意で、意気役合する親しい間からを言う。

白眉（ハクビ）蜀の馬良の兄弟五人ともに才名があったが、眉に白い毛のあった馬良

が特にすぐれていたという故事から、特にすぐれている人（または物）を言う。

暴露(バクロ)暴は日にさらすが本義。露にさらされるの意で、雨風にさらされること。

また、暴も露も、あらわす、あらわれるの意で、秘密や悪事をあばくこと、またあらわれる(露見)こと。

駁[×]論(バクロン)駁は毛色のまだらに入りまじった馬。議論が入りまじるの意で、他人

の意見を非難攻撃することを言う。

跛[×]行(ハコウ)跛はびっこ。また、偏頗^{ヘンパ}(かたよる)。足のぐあいが悪く、正しく歩く

ことができないことだが、つりあいが取れない意に用いる。

破碎(ハサイ)破り砕くこと。また破り碎けること。

破綻[×](ハタン)綻^{タン}は糸が切れ(断^{ダン})てほころびること。物事が破れほころびるように

うまくいかなくなること。

朔[×](ハツサク)朔は朔日(ついたち)。陰暦八月一日。

跋涉[×](バッショウ)山を越え、川を渡ること、方々を歩き回る意に用いる。

拔擢[×](バツテキ)擢(基礎編参照)。多くの中から選んで引き抜き用いること。

法度[△](ハツト)法令。特に禁制。

発布(ハツプ)天下にあまねくしくこと。例憲法発布

波濤[×](ハトウ)濤は大波。海のことを言う。

破風[△](ハフ)切妻屋根の端につけた山形の板。

破廉恥(ハレンチ)廉恥を破るの意で、恥を恥とも思わぬ鉄面皮(厚顔)をいう。廉は心が清いこと。

挽[×]歌(バンカ)挽は引く。昔、葬送のとき、ひつぎを引く者の歌ったことから、死者をいたむ詩歌を言う。

煩瑣[×](ハンサ)瑣は玉の屑^{くず}で、細かい(瑣細^{ササイ})こと。細かすぎて煩わしいことを言う。

磐[×] 石（バンジャク）大きな岩。きわめて堅固なこと。

反芻[×]（ハンスウ）芻は刈り取った草。牛馬の飼料。飲み込んだえさを口の中にもどし、もう一度かみなおすこと。転じて、くり返し考え味わうことを言う。

範疇[×]（ハンチュウ）同一性質のものの属すべき部類。カテゴリーの訳語。

反駁[×]（ハンバク）駁論の項参照。

頒布（ハンブ）布は広く行き渡らす意。頒は分ける。広く分け配ること。

汎濫（ハンラン）汎は濫（基礎編監の項参照）と同義。河川があふれ、洪水になること。
と。

凡例（ハンレイ）本の初めに掲げるその本の利用法について書かれた条項。例言。

汎論（ハンロン）一般的な論。また概括した論。

罷業（ヒギョウ）業を罷めるの意で、ストライキの訳語。

氷雨（ひさめ）①雹・霰。②冷たい雨。

必携（ヒツケイ）必ず携え持つべきものを言う。

逼塞（ヒツソク）逼は迫る。塞はふさぐ。①八方ふさがりの状態。②落ちぶれて世間

から隠れる。③門を閉じて昼間の出入りを禁じた刑。

秘匿（ヒトク）ひそかに匿す。

瀰漫（ビマン）瀰は満ち満ちる意。（漫は基礎編漫参照）ある気分・風潮などが広がり

はびこる意。

秘鑰（ヒヤク）秘密のかぎ。

譬喩（ヒユ）たとえ。比喻とも書く。（基礎編辟・俞参照）

剽輕（ヒョウキン）剽は輕快の意。氣輕で滑稽なこと。

剽窃（ヒョウセツ）剽はかすめる。窃はぬすむ。かすめぬすむ意だが、他人の文章をぬ

すみ使うのに用いる。

平[△] 仄[×] (ヒョウソク) 漢字の四声のうち、平声を平とし、上声・去声・入声を仄とする。

披[×] 露[△] (ヒロウ) 披は開く。露はあらわす。① 文書などを開いて皆に見せる。② 公に

発表すること。

品[×] 驚[×] (ヒンシツ) 品評。品定め。

颯[×] 蹙[×] (ヒンシユク) 颯は顔をしかめる。蹙は足の縮む意だが皺^{しわ}を寄せる意に用いた。不

快の色を表わすこと。例 颯蹙を買う

憫[×] 笑[×] (ビンシヨウ) 憫は憐^{あわれ}む。輕蔑と憐みとをこめた笑い。

敏捷[×] (ビンシヨウ) 敏も捷もすばやい意。

便[×] 乘[×] (ビンジョウ) 便宜[・]に乗るの意。他の人が車に乗るのを利用して、それに乗せてもらうこと。転じて、広く機会をとらえ權威を利用したりすること。

稟[×] 性[×] (ヒンセイ) 稟は受けるの意。天より受けた性質。天性。天稟^{テンビン}とも言つ。

擯[×] 斥[×] (ヒンセキ) 擯も斥もしりぞけること。

頻[×] 度[×] (ヒンド) 頻は顔に皺^{しわ}を寄せる(颯)のが本義だが、しばしばの意に用いる。同じ

ことがくり返して起こる度数。出現度数。

頻[×] 繁[×] (ヒンパン) 繁は多い、盛んの意。しばしば、盛んに、の意。

紊[×] 乱[×] (ビンラン) 紊は系の乱れ。風紀紊乱などと使われるが、紊^{ビン}は慣用音。漢音は

ブン。

吹[△] 聴[△] (ふいちョウ) 吹は宣伝の意。言いふらすこと。

無[×] 音[×] (ブイン) 音沙汰^{サタ}無しの意。久しくたよりをしないこと。また、黙っていること。

風[×] 体[×] (フウテイ) 姿。身なり。

瘋[×] 癲[×] (フウテン) 言行錯乱・感情激発などの著しい者。気ががい。

風来坊（フウライボウ）風の来る（きた）がごとく、どこからともなくさまよい来た者。

不壊（フエ）こわれないこと。堅固。

賦役（フエキ）賦は租税。特に地租をいう。役は夫役。どちらも公事に奉ずる仕事。

敷衍（フエン）[×] 衍は水の広がること。わかりやすいようにことばをつけ加えることを言う。

不穩（フオン）穩やかでないこと。

不羈（フキ）[×] 羈は馬の手綱（たづな）。束縛（たづな）されないことを言う。

馥郁（フイク）[×] 馥は基礎編纂。郁は地名が本義。盛んな様に用いる。よいかおりが盛んにただようこと。

福音（フクイン）幸福（ふく）な音（おと）づれの意。よい知らせの意だが、キリストの教えの意に用いられる。

復讎（フクシュウ）[×] 讎（しゅう）は酬（むく）。讎は言に酬（むく）いるの意。返答が本義。仕返し・仇討ち（あだ）の意に用いる。

輻輳（フクソウ）[×] 輳（そ）は方々から寄り集まって込み合うこと。（基礎編纂参照）

覆轍（フクテツ）[×] 轍（てん）は顛覆した車輪の跡。後ろの車にとってよい注意になるので、なる前例（ぜんれい）という意に用いる。参考（さんこう）に

服喪（フクモ）喪（死んだ人の近親者が、一定期間謹慎すること）に服する。

分限者（フゲンシヤ）金持ちの意。

不細工（フサイク）[△] 細工がまずいの意で、醜（みにく）い意にも用いる。例 不細工な顔

不死身（フジミ）死（し）ない身体（からだ）の意で、強い身体や意志の強い人の意に用いる。

浮腫（フシュ）[×] むくみ。

不精（フショウ）[△] 精（しょう）を出さないの意。めんどろがりを言う。無精（むしょう）とも書く。

普請(フシン) 普はあまねし。あまねく人に請^こうて、寄付金により堂塔の建築をしたこ

とから、^〳建築^{ヤボ}の意に用いる。

不[△]粋(フスイ) 粋^{いき}でないこと。野暮^{ヤボ}。無粋とも書く。

布施(フセ) 僧侶などに金銭物品を施し与えること。

風情^{△△}(フゼイ) 独特の趣・味わいの意。

無勢(フゼイ) 人数が少ないこと。

扶桑(フソウ) 東海の日の出る所にあるという神木。転して、日本の称。

負担(フタン) 負も担もになるの意。自分のすべき仕事・義務を言う。

扶持[△](フチ) 生活を扶助し、保持するものの意で、^〳給料^〳を言う。

払拭[×](フツショク) 払い拭^{ぬぐ}うの意で、すっかり除き去ること。

沸騰(フツトウ) 騰^{トウ}は登の仮借。沸^わき上がるの意。

不逞[×](フテイ) 逞はたくましい、心のままにふるまうの意。不逞もその意に使う。^〳怪^ケ

しかることゝと、怪^〳しからぬことゝとが同義なのと全く同じ。

埠頭[×](フトウ) 埠は盛り上げた土。舟を着ける所を言う。

不如意(フニヨイ) 意^いの如^{ごと}くならずの意。思うままにならぬこと。家計の苦しいことを言

う。

赴任(フニン) 任^〳地に赴^{おもむ}くこと。

無人(フニン) 人手^〳が足りないこと。

不憫[×](フビン) 憫・愍はあわれむこと。憫なること。かわいそうの意に使う。

訃報[×](フホウ) 訃^{おもむ}は赴^〳き告げる意。死亡の知らせを言う。

夫役[△](フヤク) 公事に人夫として従事すること。昔の公民としての義務の一つ。

無頼^〳(プライ) 頼^{たよ}るべき所のないこと。多く無法者の意に用いる。

不 埒[×]（フラチ）埒は馬場の囲い。埒がしてないこと。道理にはずれ、けしからぬことを言う。

腐 爛[×]（フラン）腐^{くさ}り爛^{ただ}れること。今は、腐乱で代用しているが、意が通じない。

無 聊[×]（ブリョウ）聊は耳鳴りが本義。退屈の意に使う。

紛 糾（フンキュウ）紛は系が分散すること。糾は系がからまること。系がもつれたように物事が混乱すること。

と。

分 蘖[×]（ブンケツ）蘖^{ゲツ}は切株から出た芽。稲麦などの根のきわから茎が枝分かれすること。

と。

紛 擾[×]（フンジュウ）争いなどもめること。

忿 怒[△]（フンヌ）忿は憤と同義。怒も同義。大いに怒ること。今は憤怒で代用し、フンド

と読む。

睥 睨[×]（ハイゲイ）睥も睨も、横目でにらむ。

平 衡[×]（ヘイコウ）衡ははかりの竿^{さお}。それが平らであるから、つりあいの取れていること。

とを言う。

閉 塞[×]（ヘイソク）閉じ塞^{ふさ}ぐこと。

辟 易[×]（ヘキエキ）辟は避ける。易は変える。相手の勢い、または困難におされてしりご

みすること。

僻 見[×]（ヘキケン）僻はかたよること。かたよった見方。偏見^{ヘンケン}。

霹 靂[×]（ヘキレキ）劈^{つんぜ}くような雷鳴を言う。

編 纂[×]（ヘンサン）纂は系を集める、編は系であむ。昔の文書は竹筒を編んだ巻物である。

書物の材料を集めて書物を完成すること。

偏 執（ヘンシュウ）偏見^{ヘンケン}（かたよった意見）を固執^{こしつ}して他人の意見を入れようとしな

いこと。片意地。

偏頗[×]（ヘンパ）頗は頭を傾けること。公平でない、片手落ちの意に使う。

翩翻[×]（ヘンポン）鳥が羽をばたばたさせること。旗のばたばたひるがえる様を言うのに

用いる。

返戾[○]（ヘンレイ）返し戻す。

布衣[△]（ホイ）官服でない、民間人の衣。平民の意に用いる。

母音（ボイン）声^{くちびる}が舌や唇、その他で妨げられないで出るとき^{の音}。

包含（ホウガン）中に包み含むこと。

拋棄[×]（ホウキ）拋は投げうつ。投げうつて棄^すてること。今は放棄で代用する。

幫助[×]（ホウジョ）幫も助の義。手助け。

放縱[△]（ホウショウ）氣ままにふるまうこと。縦^{シヨウ}の音がないので放縱^{ホウジュウ}と読むが、正し

くない。

豐饒[×]（ホウジョウ）饒は食べ物の豊かなこと。広く物の豊かにあること。

呆然[×]（ボウゼン）呆^{アホウ}は痴呆、愚かなこと。ぼんやりとしていること。

彪大[×]（ボウダイ）彪は大の義。非常に大きい意。今は膨大で代用している。

放逐[×]（ホウチク）追い払うこと。

防諜[×]（ボウチョウ）諜はことばをかすめる義。スパイを言う。スパイを防ぐこと。

拋擲[×]（ホウテキ）投げうちすてること。今は放擲で代用している。

封土（ホウド）封建君主の諸侯に与えた土地。

放埒[×]（ホウラツ）氣ままをし酒色におぼれること。馬^{ウマ}が埒^{ラチ}から放たれる意のことば。

不埒^{フラチ}を参照。

卜筮[×]（ボクセイ）龜卜と筮竹。龜も筮も占うらないに使うもの。占いを言う。

木鐸[×]（ボクタク）昔、中国で法令をふれるときに鳴らした鈴の一種。世人に警告を発し、
教え導く人の意に用いる。

朴[×] 訥[×]（ボクトツ）朴は撲で未加工の木。訥は言内にこもるの意。飾りけがなく無口なこ
と。

反[△] 古（ホゴ）書き損じの不用の紙のこと。転じて広く役にたたぬことを言う。

発[△] 起（ホツキ）計画を起こすこと。発は起と同義。

発[△] 作（ホツサ）ある症状が突発的に起こることを言う。作は起と同義。

発[△] 足（ホツソク）団体が作られ、活動を始めるときを言う。

発[△] 端（ホツタン）起り。始まり。

補[×] 填[×]（ホテン）欠けた所を^{うす}填め補うこと。

煩[△] 悩[△]（ボンノウ）^{なや}悩み^{わずら}煩いの意で、心をかき乱す欲望を言う。

本[△] 望（ホンモウ）本来の望み。前々から望んでいたこと。

翻[×] 弄[×]（ホンロウ）^{もてあそ}思いのままに弄ぶこと。

邁[×] 進（マイシン）邁は①遠く行くが本義。②努め励む。③すぐれる。元気に進むこと。

埋[△] 設（マイセツ）地下に埋めて設備すること。

巴[×] 巴[×]（まんじともえ）互いに入り混り入り乱れること。

微[△] 塵[×]（ミジン）^{ちり}微細な塵の意で、^び微細の意に用いる。

未[△] 遂（ミスイ）^{いま}未だ^と遂げずの意で、計画だけで着手しない、また着手しても遂行できな
いことを言う。

瑞[×] 穂（みずほ）^{みず}瑞々しい稲の穂。日本の古い国名。

密[△] 漁（ミツリョウ）法を破って漁をすること。

未[△] 聞（ミモン）^{いま}未だ聞かすの意。まだ聞いたことがない珍しいこと。

冥[×]加[×]（ミヨウガ）知らず知らずに受ける神仏の加護。また、冥利の意。
冥[×]利[×]（ミヨウリ）善行の報いとして得た幸福。また冥加の意。

無[×]碍[×]（ムゲ）じゃまする障碍がないこと。

胸算用（むなザンヨウ）胸の中の計算。

謀[△]叛[×]（ムホン）君主にそむいて兵を起こすこと。

名[×]刹[×]（メイサツ）刹は梵語で寺院の意。有名な寺。刹は漢音。呉音はセツ。

明[×]晰[×]（メイセキ）晰は明と同義。暫とも書く。ある概念と他の概念との区別が明瞭に

理解されていて混同されないこと。

面[△]目[△]（メンボク）顔の意で、人に会わせる顔。つまり、世間に対する名譽。

猛[×]禽[×]（モウキン）性質の荒々しい肉食の鳥。

亡[△]者[△]（モウジャ）死者。特に成仏できずに迷っている者。金錢など物欲に執着してい

る者を言う。例 我利我利亡者

蒙[×]昧[×]（モウマイ）蒙も昧も暗い意。知識が低く道理に暗いこと。

朦[×]朧[×]（モウロウ）朦も朧も月のおぼろなこと。意識がぼんやりとはっきりしない意に

用いる。

耄[×]碌[×]（モウロク）碌は石がごろごろしていることで、役にたたぬ意に用いる。老いばれ

ること。

默[×]示[×]（モクシ）口に出して言わず、暗黙のうちに考えを示すこと。キリスト教では神が

人に神意や真理を示すことを言う。

默[×]禱[×]（モクトウ）無言で祈りをささげること。

沐[×]浴[×]（モクヨク）沐は髪を洗うこと、浴はからだを洗うこと。水浴することを言う。

猛[△]者[△]（モサ）勇敢で氣力に富む人のこと。

悶[×] 着(モンチャク) 悶は心がとざされてもだえること。もめごとを言う。

文盲(モンモウ) 文字が読めない意で、無学の者を言う。

約定(ヤクジョウ) 約束して定めること。

厄[×] 日(ヤクビ) 災難の起こる悪い日。

夜叉[×] (ヤシャ) 梵語。インドの鬼神。

約款(ヤツカン) 契約・条約などの取り決めの一つ一つの条項。

唯一(ユイイツ) ただ一つ、ほかに類のないことを言う。

遺言(ユイゴン) 遺は残す。死後に残すことば。

由[△] 緒(ユイシヨ) 由はゆ、果実の木につながって育成するいわれ。物事のそもそもの起こりを言う。(緒は基礎編者参照)

結納(ゆいのう) 結婚の約束の証として品物を納めること。

誘掖[×] (ユウエキ) 掖は腋わきの下から支えること。ねんごろに導くことを言う。

誘拐[×] (ユウカイ) 拐は甘言(口)やおどし(力)で女・子どもをだまして連れ出すこと。

雄渾[×] (ユウコン) 渾は大河があらゆるものを一つに混ぜ合わせて勢いよく流れること。

文章が雄大で力強くよどみないことを言う。

遊説(ユウゼイ) 主張を説いて各地を歩き回ること。

油[△] 然(ユウゼン) 油は川の名。とりとした流れであるところからあぶらの意に用いられる。静かだが力強い有様を言うのに用いられ、雲の盛んにわき起こ

る様などを言う。

輸贏[×] (ユエイ) 勝負の際の数取りを相手に渡すのが輸 つまり負けること。贏エイは盈(満) する)で、それがあり余るほどある、つまり勝つこと。勝負の意味を表わす。

遊[△] 山(ユサン) 野山に遊びに行くこと。

湯桶[×] (ゆトウ) 食後に飲む湯を入れて置く木製の容器。

容喙[×] (ヨウカイ) 容は入れる。喙は口ばし。口ばしを入れる、つまり横から口出しすること。を言う。

窯業(ヨウギョウ) 窯^{かま}で焼く仕事の意で、陶磁器製造業を言う。広くはガラス・セメント・煉瓦製造をも含む。

ト・煉瓦製造をも含む。

擁護(ヨウゴ) 擁は手で小鳥をだきかばう意。大事にまもり助けること。

容赦(ヨウシヤ) 赦は罪をゆるすこと。ゆるしを入れる。

要衝(ヨウシヨウ) 衝は^ツと重て交通上重要な所を表わす。広く『重要な地点』の意に用いる。

に用いる。

養生(ヨウジヨウ) 生命を養うの意で、健康に心がけること。

養殖(ヨウシヨク) 魚・貝などを人工的に育てふやすこと。

夭折(ヨウセツ) 夭は首の曲がった人の象形で、首の定まらない幼児を言う。幼くして死ぬこと。若死に。

要諦(ヨウテイ) 諦は仏教の悟りのこと、物事の最もたいせつな点を言う。ヨウタイが正しい読み方。

揺籃(ヨウラン) ゆりかご。

余蘊[×] (ヨウン) 蘊は蓄。余分の蓄えの意だが、余り、残りの意に用いられる。
例 余蘊

なく研究する

沃野(ヨクヤ) 沃は水をかける。地味の肥沃な平野の意。

抑揚(ヨクヨウ) 抑はおさえる、揚は引き伸ばす。声(または文章)に変化をつけること。を言う。

予餞会（ヨセンカイ）前もって餞はなむけする会の意で、卒業前に行なう送別会などを言う。
磊落（ライラク）磊は大きな石の積み重なっていること。心が大きくて、小事にこだわ

らぬことを言う。

烙印（ラクイン）焼き印。刑罰として罪人の額に付けたことから、ぬぐいきれない汚名

を受けることに言う。

落胤（ラクイン）落としたね。身分の高い男が正妻でない女に生ませた子を言う。

落魄（ラクハク）魄は死者の魂たましい（天上に昇るのを魂、地上に残るのを魄と言う）の

意から落ちぶれる意に用いられる。身分や生活の落ちぶれること。

螺旋（ラセン）巻貝（螺）のようにぐるぐるまいていること。また、ねじのこと。

落款（ラツカン）書画に筆者が署名し、また雅号の印を押すこと。またその署名や印。

款は心の中を表示する意。器物に刻む銘を款識カンシキと言う。

辣腕（ラツワン）辛は注射針、束はいばら。辣はすぐきびしい意。すごい腕きき、

てきばきと物事を処理すること。

濫觴（ランショウ）揚子江もその源は觴さかずきを濫うかべるくらいだという孔子家語ケゴから、物

事の始まりの意に用いられる。

濫造（ランゾウ）みだりに造ること。『粗製濫造』と言う。（基礎編監の項参照）

懶惰（ランダ）なまけ怠おこたること。ライダと読むのは誤り。

乱丁（ランチョウ）丁は書物のページ。ページの順序が違っていること。

藍本（ランポン）よりどころになる原本・原典を言う。また、絵の下書き。

襪褌（ランル）ぼろきれ。

六経（リクケイ）易经・詩経・書経・春秋・礼記・楽記の六つの經典を言う。

六書（リクシヨ）漢字の成り立ちを分類した象形・指事・会意・形声・転注・仮借を

言う。

履行（リコウ）履は足でふむこと。約束などを実際に行なうことを言う。

罹[×]災（リサイ）罹は心にかかるが本義。災^{わざわ}いにかかること。災害を受けること。

隆盛（リュウセイ）隆とは丘（^ト）の盛り上がる意で盛んな意に用いられる。勢いの盛んになること。

隆替（リュウタイ）隆汚とも同じ。盛衰の意。

流暢[×]（リュウチャウ）ことはがなめらかに出てよどみないこと。（暢は基礎編易の項参

照）

柳眉[×]（リュウビ）柳の葉のように細く美しいまゆの意で、美人の形容。

領袖[×]（リュウシュウ）領はえり、袖はそで。衣服の目だつ部分であるところから、集団

のかしらを言う。

諒[×]恕[×]（リョウジョ）事情をくんでゆるすこと。

吝[×]嗇[×]（リンシヨク）けち。

輪廻[×]（リンネ）車輪が回転するように、世の中の万物は生死栄枯をくり返すことを言う。

凜冽[×]（リンレツ）ゝは氷。寒気のきびしいことを言う。

累進（ルイシン）累は糸を重ねること。官位などの次々と進級することを言う。

屢次（ルジ）屢はしばしば。しばしばの意。

流説（ルセツ）一般に広まった説。

流転（ルテン）仏教で、生死因果が輪廻して窮まりないことを言う。

縷[×]縷[×]（ルル）糸の切れないうで長く続くこと。こまごまと述べる様を言う。

隸従（レイジュウ）隸は従と同義。部下となって従うこと。また郡下の意。

黎明（レイメイ）黎は黒い意で、夜の明けようとする前の暗黒をさす。その暗黒から明

るくなりかけるころ。

轢[×] 死（レキシ）轢は車でひくこと。車にひかれて死ぬこと。

廉 潔（レンケツ）心が清く、行ないが正しいこと。

連 袂[×]（レンベイ）袂^{たもと}を連ねるの意で、そろって同じ行動を取ることに用いる。

聾[×] 啞[×]（ロウア）つんぽとおし。

漏 洩[×]（ロウエイ）漏も洩ももれる。秘密のもれることに用いる。ロウセツが正しい。

老 嫗[×]（ロウオウ）女の年寄り。

老 翁（ロウオウ）男の年寄り。

陋 屋（ロウオク）狭くてみすばらしい家の意で、自分の家の謙称に用いる。

狼 藉[×]（ロウゼキ）^{おおかみ}狼が草を藉^しいて寝たあとの乱れていることから、乱雑な様子を言

う。また乱暴を働くことをも言う。

壟[×] 断（ロウダン）壟は田のうね。転じて高い所。高い所に登り、市場全体を見ることが

より大きな利益を得たという故事から、利益や権利を独占することを言う。

狼[×] 狽[×]（ロウバイ）うろたえ騒ぐこと。

籠[×] 絡（ロウラク）人をまるめこんで思いどおりに従わせることを言う。

濾[×] 過（ロカ）水をこすこと。

猥[×] 褻[×]（ワイセツ）性に関することを、健全な社会風俗に反する態度で取り扱うこと。猥

は卑しいの意。褻ははだ着が本義で、けがらわしい意。

賄 賂[×]（ワイロ）賄も賂も金品を贈る意。私利をはかるためにする不正な贈与。

惑 溺[×]（ワクデキ）^{まど}惑い^{おぼ}溺れる意。心がとらわれのため判断力を失うことを言う。

四字の熟語

安心立命（アンシンリツメイ）天命に任せてつまらぬことに心配しないこと。

暗中摸索（アンチュウモサク）模は摸が本字。手さぐり。（基礎編莫の項参照）暗やみの

中を手さぐりで捜すことから、どうしてよいかわからずにいろいろな
 ってみることを言う。

意気軒昂（イキケンコウ）^x軒は家ののき。意気高く上がること。意気衝天^{ショウテン}、意気揚揚な

どの語もある。

異口同音（イクドウオン）口は異なるが言うことは同じ、意見が一致すること。

一攫千金（イツカクセンキン）^x莫大な財産を一つかみにすること。

因循姑息（インジュンコソク）^x因は依る、循は従う。改めなければならぬのに旧い慣例に

従って一時のがれをしてその場をしのいでいること。姑はしばらく。

息は休む。

有為転変（ウイテンペン）物事が以前とすっかり違ってしまったことを言う。

右顧左眄（ウコサベン）^x右を見たり、左を見たり。自信がなく、決断しかねるときに用い

る。左顧右眄とも言う。

栄耀荣华（エイヨウエイガ）^xはでなおごりをする事。

会者定離（エシヤジョウリ）会う者は必ず離れる意。人生の無常を説いたことば。

温故知新（オンコチシン）古い昔の事を研究して、そこから新しい見解や知識を得ること。

論語のことば。

偕老同穴（カイロウドウケツ）^x夫婦仲良く、生きてはともに年をとり、死んではいっしょ

に葬られること。

合縦連衡^{△×}（ガツショウレンコウ）合縦は縦に合同すること、連衡は横に連合すること。戦

国時代、蘇秦^{ソシン}は南北（合縦）に同盟して秦に対抗することを説き、張^{チヨウ}

儀^ギは秦と結ぶことを説いた。これらを「縦横家^{ジュウオウカ}」と言う。

我田引水（ガデンインスイ）我^わが田に水を引く、つまり、自己の利益になるように言った
りしたりすること。

画竜点睛^{○×}（ガリョウテンセイ）睛はひとみ。竜を描いて最後にひとみを書き入れたら、画

竜が天に上ったということから「最後に加えるたいせつな仕上げ」

を言う。

例

画竜点睛を欠く

苛斂誅求^{×××}（カレンチュウキュウ）税金をむごく取り立てることを言う。

夏炉冬扇（カロトウセン）夏の火鉢^{ひば}、冬の扇、つまり「時節に合わない無用の長物」の意

に用いる。

侃侃諤諤^{×××}（カンカンガクガク）侃はことばの強く正しいこと。諤は卒直に言うこと。正し

いと思うことを直言することだが、よく誤ってケンケンガクガクと言
われる。

汗牛充棟（カンギュウジュウトウ）蔵書の多いことを言う。重さは牛も汗をかくほどで、

かさは棟^{むね}につかえるほどあるという意味。

換骨奪胎（カンコツダツタイ）古人の詩文の語句や構造に手を入れて一部を変え、これを

自分の作品にすることを言う。

冠婚葬祭（カンコンソウサイ）元服と婚礼と葬儀と祖先の祭典。慶弔の儀式を言う。

頑迷固陋[×]（ガンメイコロウ）頑固で、見聞が狭く、古くさいこと。

旗幟鮮明[×]（キシセンメイ）幟は合戦のとき、自分の存在を明らかにする旗じるし。転じて、

表だって示す主張や立場を明らかにすることに用いる。

疑心暗鬼（ギシンアンキ）疑う心が起こるとありもしない鬼が見えてくるように、何でも
ないことでも、疑い出すと恐ろしくなることを言う。

氣息奄奄（キシクエンエン）^x 息も絶え絶え、今にも死にそうな様子を言う。

教唆煽動（キョウサセンドウ）^x おだててそのかして、ある行動を起こすようにしむけるこ

と。煽は扇て火をあおぐこと。当用漢字にないので『扇動』と使う。

行住坐臥（ギョウジュウザガ）^x 日常の行為。転じて『日常』^{ヘイセイ} 平生の意味に使う。

驚天動地（キョウテンドウチ） 天を驚かし、地を動かすほどの大事件という意味。

曲学阿世（キョクガクアセイ）^x 学問（真理）を曲げて世の人の気に入るような説を唱える

こと。阿はおもねる。世におもねる。

玉石混淆（ギョクセキコンコウ）^x 玉と石と、つまり、すぐれたものとつまらぬものと入り

混じっていること。今は『混交』と書く。

毀譽褒貶（キョホウヘン）^x 悪口とほめことば。

金科玉条（キンカギョクジョウ） 金や玉のようにりっぱな法律文。つまり、このうえなく

たいせつにして従うべききを言う。

欣喜雀躍（キンキジャクヤク）^x 大喜びで小踊りすること。

金城湯池（キンジョウトウチ） 金で作った城と熱湯を入れた堀の意で、非常に守備の固い

城を言う。『金城鉄壁』^{テツベキ} ということばもある。

欽定憲法（キンテイケンポウ）^x 君主の命によって選定められた憲法。明治憲法がこれで

ある。

空前絶後（クウゼンゼツゴ） 以前に一度もなく、今後も起こらないだろうと思われる珍し

いことを言う。

群雄割拠（グンユウカクキョ） 各地を地盤とした英雄たちが、互いに勢力をふるって対立

すること。戦国時代の様相。

■ 君子自重 (クンシジチヨウ) ■

表面は『君子よ、自重を望む』という意味のことばであるが、

実は『この所小便無用』という意味の中国での用法である。

小便無用でも、『小便しなくて結構です』という表現で、『小便

するな』という高圧的な言い方よりうれしくなるが、『君子よ』

と呼びかけられると、もっとうれしくなって、つい自重したく

なると言うものである。



牽強付会 (ケンキョウフカイ) 道理に合わないものを、自分の都合のよいように、むりに

こじつけること。

喧喧囂囂 (ケンケンゴウゴウ) 発言が多くてやかましい様を言う。侃侃諤諤 (カンカンガクガク) と混用する

ことがあるので注意。

乾坤一擲 (ケンコンイツテキ) 運命をかけてのるかそるかの大勝負をすること。

捲土重来 (ケンドチョウライ) 前に敗れた者が勢いを盛り返し、重ねて攻めて来ること。

絢爛豪華 (ケンランゴウカ) 目がくらむほどきらびやかに美しく、ぜいたくではなやかな

こと。

巧言令色 (コウゲンレイシヨク) ことばをうまく飾って言い、顔色をつくろってあいそを

見せること。孔子は、こういう態度の者には誠実さが無い (巧言令色

少ないかな仁) と言った。

荒唐無稽 (コウトウムケイ) 言うことにとりとめがなく、考えによりどころがないこと。

でたらめ。

好評嘖嘖^{××}（コウヒョウサクサク）評判が良くて口々に言いはやされること。

甲論乙駁[×]（コウロンオツバク）甲が何か論ずると、乙がそれに反論するというふうに、議論が百出してまともでないこと。

呉越同舟（ゴエツドウシュウ）呉と越とは互いによく争った国の名。仲の悪い者どうしが同席するときなどに言う。

虎視眈眈^{×××}（コシタントン）虎が獲物をねらって様子をうかがっていること。広くチャンス
をねらう場合に用いられる。

後生大事（ゴシヨウダイジ）のちの世の安楽を願って、この世を一心に努力することだが、
転じて、物をひどく大事にすることを言う。

例 後生大事に持っ
て

いる

木端微塵^{△△×}（こっぱミジン）木端は木の削りくず。細かく粉々に碎けることを言う。

金剛不壊[△]（コンゴウフエ）非常に堅固でけっしてこわれないこと。

言語道断（ゴンゴドウダン）もってのほかのこと。もと仏教で、窮極の真理がことばで言
い表わせないことを言ったことば。

才氣煥発[×]（サイキカンパツ）頭の働きが活発で盛んなこと。頭が鋭い。

才色兼備（サイシヨクケンビ）「婦人の」すぐれた才知と容貌と兼ね備わっていること。

自画自賛（ジガジサン）自分で書いた絵に自分で賛を書くことだが、自分で自分をほめる
ことに用いる。手前味噌^{ミン}。

自業自得（ジゴウジトク）自分でした悪事の報いを自分の身に受けること。

獅子奮迅[×]（シシフンジン）獅子が荒れ狂ったようにすごい勢いで奮闘すること。

自縄自縛[×]（ジジョウジハク）自分の作った縄で自分をしばるように、自分の言行で自分の
なわ

動きが取れなくなることを言う。

櫛風沐雨（シツプウモクウ）風で櫛^くけずり、雨で髪を洗うという意味で、雨風にさらされ

て苦勞し、奔走すること。沐は髪を洗うこと。からだを洗うのが浴。

揣摩臆測（シマオクソク）[×] 当て推量に事情をおしはかること。

杓子定規（シヤクシジヨウギ）[×] 何でも一つの規律や基準で律しようとする融通のきかない

やり方や態度を言う。

周章狼狽（シュウショウロウバイ）[×] あわてうろたえ騒ぐこと。狼も狼も「おおかみ」。狼

は前足長く、狼は短いのでいっしょに行動し、両者が離れると倒れる

のであわてるとい話による。

秋霜烈日（シュウソウレツジツ）秋の冷たい霜と夏の烈^{はげ}しい日光ということで、權威や刑

罰などが非常にきびしいことのたとえに用いられる。『秋霜』だけで

は『白髮』にたとえられることがある。

首鼠兩端（シュソリョウタン）[×] 穴から首を出して左右をうかがう鼠^{ねずみ}のように、迷って形

勢をうかがうことを言う。日より見

常住坐臥（ジョウジュウザガ）[×] ふだんの生活。また、ふだん。常住不斷ということばもあ

る。

正真正銘（ショウシンショウメイ）まさにほんもの、という意味。

精進潔斎（ショウジンケツサイ）飲食を慎しみ、身体を清め、一心に修行すること。行な

いを慎しむことや、仕事に精魂を打ち込むことに用いられる。

情状酌量（ジョウジョウシャクリョウ）[○] 裁判官が、犯罪に至った事情のあわれむべき点を

くんで、刑を軽くしてやること。

枝葉末節（ショウウマッセツ）主要でない部分を言う。取るに足らぬ事から。

諸行無常（ショギョウムジョウ）^{ルテン} 諸行は宇宙の万物のこと。万物は常に流転し、変化消滅

が絶えないという仏教の根本思想を表わしたことば。

支離滅裂（シリメツレツ）統一がなく、ばらばらに乱れている状態。

人権蹂躪（ジンケンジュウリン）^x 蹂躪は踏みじること。基本的人権を犯すこと。常用漢

字にないため、今は「人権侵害」が使われる。

信賞必罰（シンショウヒツバツ）賞罰を厳格にすること。

針小棒大（シンショウボウダイ）針ほど小さいことを棒ほどに大きく言うという意味で、

物事を大げさに言うこと。

新陳代謝（シンチンタイシャ）[△] 陳は古いこと。生物体が生存に必要な物質を体内に取り入

れ、用済みとなった古い物質を体外に出す作用。

人面獸心（ジンメンジュウシン）人間の顔をしていても心は獣と同じだということで、恩

や恥を知らぬ人間を言う。

森羅万象（シンラバンショウ）森羅は森の木の限りなくつらなること。万象の修飾語。象

は形ある物の意。宇宙に存在するいっさいの万物という意味のことば。

醉生夢死（スイセイムシ）生まれて死ぬまでの間を、酒に酔い、夢見ごちですごすとい

う意味。ただ生きているというだけで価値のない生き方を言う。

水天彷彿（スイテンホウフツ）^x 彷彿はよく似ていて見分けがつかぬこと。海の遠い沖と空

とが続いて見分けがつかぬ様を言う。

寸善尺魔（スンゼンシャクマ）世の中には良い事が少なく、悪い事が多いことを言う。

寸は尺の十分の一の長さ。一寸は約三センチメートル。

生殺与奪（セイサツヨダツ）生かすも殺すも与えるも奪うも自分の思いのままであること。

例 生殺与奪の権をにぎる

青天白日（セイテンハクジツ）心にやましいところが全くないこと。また、無罪だと明ら

かになること。
例 青天白日の身となる

清廉潔白（セイレンケツパク）廉は潔と同意で、いさぎよいこと。心が清らかで私欲がな

いことを言う。

是是非非（ゼゼヒヒ）是を是とし、非を非とする態度。公平無私な態度を言う。

切磋琢磨（セツサクマ）切^スる、磋^ウる、琢^ミつ、磨^カくは宝玉を作り上げる手順。学問・道徳

に励んで自己を完成することにとえる。また仲間どうし互いに励まし合って向上することにも用いる。

切齒扼腕（セツシヤクワン）齒^クぎしりをし、腕を握りしめて、ひどくくやしがつたり怒ったりすること。

絶体絶命（ゼツタイゼツメイ）命はからだに宿るもの、絶体も絶命も同じ意。必死の状態に追いつめられること。『絶対絶命』ではないことに注意。

浅学菲才（センガクヒサイ）菲は薄の意。学問が浅く、才能が薄いこと。自己をへり下って言うときに用いる。

千載一遇（センザイイチグウ）載は歳の意。千年に一度しか出会えないこと。
例 千載一

遇の好機

戦戦兢兢（センセンキョウキョウ）戦^{セン}は戦慄で、ふるえおののくこと。兢はつつしむこ

と。恐れつつしむあまりふるえおののくこと。今は『戦々恐々』と書くが、戦争が恐ろしくてふるえるのではない。

前代未聞（ゼンダイミモン）[△]今までに聞いたことがないの意。たいへんなできごとやあきれた事に使う。

千篇一律（センペンイチリツ）千篇の詩が皆同じ調子だという意で、どれもこれも変わりばえのしないことを言う。

序編
造次顛沛^{× ×}（ゾウジテンパイ）造次はとっさの間、顛沛はつまずいて倒れる間。きわめて短

時間の意。

大願成就（タイガンジョウジュ）大きな願いが成し遂げられること。仏教の大願は衆生を

救うことである。大は呉音^{だい}。

大器晩成（タイキバンセイ）晩は早^{はやい}の反対（遅は速^{はやい}の反対）。大人物は早熟でなくて晩^{おそ}

く成熟するという意味。漢音は大^{タイ}。

泰山北斗（タイザンホクト）泰山は中国の名山、北斗は北斗星。人に指針を与え、人に仰

がれる者のたとえ。略して「泰斗」とも言う。

多岐亡羊（タキボウヨウ）岐は岐路（分かれ道）。道が多く分かれていて、逃げた羊をど

う追うべきか迷ってけつきよく失う、の意で、学問の道があまりにも多方面に分かれていて、真理を見失いやすいことを言ったもの。

单刀直入（タントウチョクニユウ）单身[・]刀[・]を持って敵陣に入り、直接大将に切りかかるこ

と。前置きなく、直接要件を切り出す場合に用いる。例 单刀直入に

お伺いしますが

魑魅魍魎^{× × × ×}（チミモウリョウ）種々の妖怪変化（おばけ）を言う。（基礎編末の項参照）

朝三暮四（チョウサンボシ）猿^{さる}に与える果実を朝三、暮れに四つにしたら怒ったので、朝

四、暮れに三つにしたら喜んだという故事。目前の利にとらわれ、大

局に気がつかないこと。また、人をうまくごまかす話術を言う。

張三李四[×]（チョウサンリシ）張氏の三男、李氏の四男の意。張・李の姓は中国に多い。身

分も低く、有名でもない、至極ありふれた人の意に用いる。

昼夜兼行（チュエウヤケンコウ）昼も夜も休まずに続けて行なうこと。

直情径行（チョクジョウケイコウ）径は直行が本義（基礎編全の項参照）。直情は偽^{いつはり}り

や飾りのないありのままの感情。心にこうと思ったことは周囲の思わくを考えずにまっすぐに言ったり行なったりすること。

沈黙考（チンシモツコウ）黙もくって深く、思考すること。

津津浦浦（つつうらうら）津つという津、浦うらという浦すべてという意で、国中至る所という意味に使う。

適者生存（テキシャセイゾン）生物進化論の用語で、生存競争の結果、外界の状態に最も適した者が生き残って繁栄すること。

徹頭徹尾（テットウテツビ）徹てつは貫徹くわんとく（貫き徹す）の徹。頭から尾まで貫徹する意で、最初から最後までおしとおすこと。

天衣無縫（テンイムホウ）天人の着物には縫い目のような人工のあとがないの意で、詩歌などが、技巧をこらしたあとがなく、いかにも自然で、しかもすぐれ

ているのを言う。また、天真爛漫の意にも使う。

天真爛漫x（テンシンランマン）爛漫は花の美しく咲き乱れた様を形容したことは。天真は生まれた時の汚れなき純真さを言う。無邪気で明朗な様。

■ 天地無用（テンチムヨウ） ■

上下を逆にはいけない荷物の包装によく書かれる。

天は天、地は地にしておいてほしいという意味のことはである。無用はそうする必要がないという意味のことはで、逆にすると言わず、無用と言ったところに昔の人の心使いの美しさを感じる。



天網恢恢^{××}（テンモウカイカイ）恢は心の大きく広いこと。老子のことばで、このあとに「疎にして漏らさず」がある。天の張りめぐらした絹は目が大きくて疎いが、悪人を必ず取りおさえるの意。天道は無為だが厳正であり、悪事には必ず悪報があること。

同工異曲（ドウコウイキョク）細工の工法は同じだが趣が違ふこと。また、反対に、違っているようで実はだいたい同じようだという場合にも用いる。

内憂外患（ナイユウガイカン）国内の政争、外国からの侵略の心配。

難攻不落（ナンコウフラク）攻撃しがたく、容易に陥落しないこと。なかなか思いどおりにいかない場合に使われる。

南船北馬（ナンセンホクバ）中国では南部では川が多いので船が、北部では山が多いので馬が第一の交通機関であった。絶えず方方を旅行すること。

二東三文（ニソクサンモン）数は多くても値段は安いこと。

二律背反（ニリツハイハン）同一の命題から互いに矛盾する二つの命題が導き出されること。甲が真なら乙は偽で、乙が真なら甲は偽だという関係。

博引旁証[×]（ハクインボウショウ）事を論ずるのに博く例を引き、旁く証拠を示すこと。

薄志弱行（ハクシジャツコウ）意志薄弱で決断実行する力の弱いこと。

博覧強記（ハクランキョウキ）博く書物を読んで、よく記憶していること。

薄利多売（ハクリタバイ）利益を少なくすることによって多く売り、全体として多くの利益を得るやり方と言う。

馬耳東風（バジトウフウ）他人の意見や批評を全く気にかけないで聞き流すことを言う。李白の詩に見える句。

破邪顕正（ハジャケンショウ）仏教のことば。邪道を打ち破り、正しい道理を世に顕し

広めること。

抜本塞源（^xバツボンソクゲン）王陽明のことば。弊害の大もとになる原因を抜き取らなければ、真の解決にならないことを言う。

波瀾万丈（^xハランバンジョウ）瀾は大波。丈は十尺（約三メートル）。ものすごい大波の意で、事件が激しい変化に富むことを言う。

盤根錯節（バンコンサクセツ）^しわだかまった根、入り組んだ節の意で、ごたごたしていて解決困難なことを言う。

美辞麗句（ビジレイク）美麗な辞句。りっぱらしく見える文句のこと。

百鬼夜行（ヒヤッキヤコウ）いろいろな姿をした鬼どもが夜中に行列して歩くことで、悪人のはびこる様を言う。

風声鶴唳（フウセイカクレイ）^x風の音や鶴の鳴き声（唳）にも、敵の襲来ではないかと恐

れるように、おじけづいていることに用いる。

不俱戴天（^xフグタイテン）^x俱に天を戴いただかない、つまり、ともに生きてはいないと思うほど恨むことを言う。

不惜身命（[△]フシヤクシンミョウ）[△]仏教のことばで、仏のために身命をささげて惜しまないことを言う。

不即不離（^xフソクフリ）^っ即かず離れずということ。

不撓不屈（^xフトウフクツ）^x撓は曲げたわめること。困難に出会ってもへこたれないことを言う。

不立文字（[△]フリユウモンジ）[△]悟りの道は、文字や言語によっては伝えられるものではないという禅宗の立場を示す標語。

武陵桃源（^{トウエンメイ}ブリョウトウゲン）世間とかけ離れた幸福な別天地。陶淵明の桃花源記によ

る架空の理想郷。

付和雷同（フワライドウ）雷同は雷鳴に応じて起こる空気の振動を言う。考えもなく他の説に同調することを言う。

粉骨碎身（フンコツサイツン）骨を粉にし、身を砕くの意で、力の限りを尽くしてがんばること。

焚書坑儒（フンシヨコウジュ）[×] 秦の始皇帝が書物を集めて焼き、儒者を穴うめにして殺したことで、文化的な弾圧を言う。

片言隻語（ヘンゲンセキゴ）隻は一つ、片は半分。ことばの切れはし、ちよつとしたことばの意味。

暴虎馮河（ボウコヒョウガ）[×] 虎を手打ちにし 黄河を徒歩で渡るの意で、無謀な危険を犯す血気の勇を言う。

傍若無人（ボウジャクフジン）^{かたわらごと} 傍に人無きが若しの意で人前をはばからずかつてにふるまうこと。

名詮自性（ミョウセンジショウ）[×] 加藤清正が清く正しい人間だったように、名がそのもの自体の本性を表わすことを言う。詮は言を全くすの意で、ことばをじゆうぶんに尽くして明らかにすること。

明鏡止水（メイキョウシスイ）曇りのない鏡 静かに澄んだ水の意で、邪念なく落ち着いた心境を言う。

明窓淨机（メイソウジョウキ）[×] 明るい窓と清らかな机の意で、清らかな書齋を言う。

明眸皓齒（メイボウコウシ）[×] ひとみが澄んでおり歯が白いこと。美人の形容。

門外不出（モンガイフシュツ）秘蔵して、家の外には出さないこと。

唯我独尊（ユイガドクソン）^{ただわれひと} 唯、我独り尊しの意で、自分だけがすぐれていると自負す

ることを言う。

優柔不断（ユウジウフダン）優はやさしい、柔はおとなしい。ぐずで決断力に乏しいこ

とを言う。

融通無礙（ユウズウムゲ）礙は通行を妨げる石。融は通と同義。じゃまになるものがなく

てうまく進行すること。

有職故実（ユウソクコジツ）[△] 朝廷や武家の礼式・典故。

羊頭狗肉（ヨウトウクニク）^x 看板に羊の頭を出しておきながら、実際には犬（狗）の肉を

売るの意で、見せかけだけで実質の伴わないことにたとえて言う。

六韜三略（リクトウサンリヤク）^{△x} 六韜も三略も中国の兵法書。兵法の極意を言う。虎の

巻 は編の名前。

竜頭蛇尾（リュウトウダビ）頭は竜だが尾は蛇の意で、頭でっかち尻つぼみの意。

臨機応変（リンキオウヘン）機に臨み、変に応ずるの意で、その場の変化に応じて適当な

処置をすばやくすることと言う。

老若男女（ロウニヤクナンニョ）[△] 年寄りも若い者も男も女も、すべての意。

六根清浄（ロツコンショウジョウ）[△] 六根は眼耳鼻舌身意、感覚や意識を生ずる六つの根元

の意。六根から生ずる欲望を断ち切り清らかになること。靈山に登る

ときに唱える文句。

炉辺談話（ロヘンダンワ）いろいろたてくつろいでする、よもやま話のこと。

論功行賞（ロンコウコウショウ）功績の有無大小を論じ、それに応じた賞を与えること。

読み方によって意味の異なる熟語

悪性（アクショウ）心や行ないの悪いこと。 **例** 悪性な女

（アクセイ）たちの悪いこと。 **例** 悪性の感冒

一定（イチジョウ）ヒツジョウ 必定。必ずそうなると決まっていること。

（イッテイ）ある決まった状態。 **例** 一定の分量

一途（イチズ）ひたむき。 **例** 一途な性質

（イット）①一つの道。同じ方針。 **例** 政令一途に出づ ②ただそればかり。 **例** 悪

化の一途をたどる

一品（イッピン）①一つの品。 **例** 一品料理 ②最上の品 **例** 天下一品

（イッポン）親王の位階。 **例** 一品親王

上手（うわて）①上のほう。 ②人よりすぐれていること。 **例** 一枚上手

（かみて）①上座のほう。 ②舞台の、向かって右のほう。

尾緒^x（おひれ）尾とひれ。 **例** 尾緒をつける（話を大きくすること）

（おびれ）魚の鰭のうち後尾にある物。

化生（カセイ）生物の器官の形状や機能がふつうと大いに変わること。

（ケショウ）母親から生まれるのではなく、自然に生ずること。また「ばけもの」の

意味にも使う。

堪能（カンノウ）物事によく熟達していること。じょうず。

（タンノウ）①カンノウと同じ。 **例** 書に堪能だ ②満足。 **例** じゅうぶん堪能した

気色（キシヨク）心に思っていることが顔に現われた様子。顔色。また気分。

（ケシキ）ある状態。様子。また、兆候。

形相（ギョウソウ）顔かたち。様子。

（ケイソウ）①形、有様。②形式。

經典（キョウテン）宗教の教理を説いた本。お経の本。

（ケイテン）①聖賢の著述した書物。四書五經など。②經典。

切羽（きりは）鉱石・石炭などの採掘場。

（セツぱ）刀のつばの両面に添えてある薄い小さい金具。

苦汁（クジユウ）苦い汁、ひどい目にあうことを「苦汁を飲まされる」という。

（にがり）食塩が温気を吸って溶けるときにできる苦い液体。豆腐製造に使う。

血脈（ケチミヤク）師の坊から弟子に授ける法統。

（ケツミヤク）①血管。②血統（血すじ）。

後生（コウセイ）あとから生まれる者。後輩。孔子は「後生おそるべし」と言った。

（ゴシヨウ）のちの世に生まれかわること。また、その世。

強力（キョウリョク）強い力。力が強いこと。

（ゴウリキ）①強い力。②登山者の荷物を背負って案内する人。

乞食（コジキ）食物や金銭を人に恵んでもらって生活する人。物もらい。

（コツジキ）憎が人家の門に立ち、鉢をささげ、食を乞い歩くこと。

在郷（ザイキョウ）郷里にすること。

（ザイゴウ）①郷里にすること。②いなか。単に、在とも言う。

再建（サイケン）もとのように建て直すこと。

（サイコン）神社・仏閣などの建物を建て直すこと。

最中（サイチュウ）まっさかり。

（もなか）①まん中、まっ盛り。②中にあんを入れた和菓子。

座頭（ザガしら）一座の長。芝居などの首席役者。

（ザトウ）盲人の琵琶法師の位の名。単に「盲人」の意味にも用いる。

地下（ジゲ）清涼殿に昇殿することを許されない宮人、またその家格。また、宮人以外の人。

（チカ）地面の下。

施行（シコウ）実際に行なうこと。「セコウ」とも読むが、これでは上が呉音で、下が漢

音でよくない。

（セギョウ）人々をあわれんで、物または教えを施すこと。

洒落（シャラク）^x 心ふるまいがさっぱりしていて、物事に深く執着しないこと。

（シャレ）人を笑わせる、気のきいた文句、また、身なりを気のきいたふうに装うこと。

重宝（ジュウホウ）^{チンチョウ} 珍重すべき宝物。

（チョウホウ）便って便利なこと。

祝詞（シユクシ）お祝いのことば。

（のりと）神に祈るとき、神官の読む古体の文章。

丈夫（ジョウフ）身のだけ一丈もある男子という意味のことばで、男子の美称。

（ジョウブ）①男子の美称。②健康なこと。③堅固でこわれにくいこと。

精霊（シヨウリョウ）仏教語で、死者の靈魂のこと。

（セイレイ）山川草木など、いろいろな物に宿ると考えられる靈魂。

人気（ジンキ）その地方一帯の気風。

例 人気が良くない

（ニンキ）世間の評判。人人からの受け。

身上（シンショウ）身代、また財産の意。

(シンジョウ) ①身の上。一身に関する事がら。 ②取りえ、値打ち。
 例 彼は親切が身上だ

人体 (シンタイ) 人のからだ。

(ニンテイ) 人の姿、また、人から。

心中 (シンチュウ) 心の中。

(シンジュウ) いっしょに死ぬこと。

真面目 (シンメンボク) 真の姿。真価の意に用いられる。

(まじめ) 誠実。本気。真心こめて物事をする事。

千万 (センバン) ①はなはだしい意。 例 卑怯千万 ②いろいろなさまさま。 例 千万心を

砕く

(センマン) ①万の千倍。 ②数の多い意。

造作 (ゾウサ) 手のかかる意。 めんどろ。
 例 造作をかける・造作なくできた

(ゾウサク) ①家を建てること。 ②建物の内部の取り付け物、畳・建具・たななど。

③顔の作り。顔つき。

大家 (ダイカ) ①その道の特にすぐれた人。 ②大きな家。

(ダイケ) 富んだ家、または身分の高い家。

大夫 (ダイフ) ①五位を授けられた者。 ②大名の家老。 ③士の上、卿の下。
 (ダイブ) 令の制度で職の長官。
 (タユウ) 格式のりっぱな芸人。

知行 (チギョウ) 封建時代、武士に支給された土地。また、俸禄。
 (チコウ) 知識と行為と。 例 王陽明の知行合一

抽出 (チュウシュツ) 抽は引き抜くこと。物や要素を抜き出す意に用いる。

(ひきだし) 机のひきだしなど。

築地(ついジ) 柱を立て、板を心シンにして泥どろで塗り固め、瓦かわらで屋根をふいた塀へい。

(つきジ) 埋め立てた土地。

追従(ツイジュウ) 人の言うこと、することにそのまま従うこと。

(ツイショウ) へつらうこと。おべっか。 **例** 追従笑い

敵勢(テキセイ) 敵の勢い。

(テキゼイ) 敵の軍勢。

難行(ナンギョウ) 困難な修行。

(ナンコウ) 進行が困難の意で、物事がうまくはかどらないこと。

撥音×(バチおと) 撥は反撥バチ ハンバツの撥で、はねる。三味線のばち。ばちが弦をはじいて楽器に

当たる音。

(ハツオン) はねる音の意で、**ん**と書かれる音。天・健・線・元など。

初日(はつひ) 元日の朝の太陽。

(ショニチ) 何日かにわたる行事の最初の日。

万歳(バンザイ) 万年、長生きの意。祝福の意を表わすため大勢となで唱える。

(マンザイ) ①新年に祝いのことを歌いながら舞う者。②かけあいまんざい。(今

では漫才と書く)

評定(ヒョウジョウ) 評議して決定すること。

(ヒョウテイ) 評価を決定すること。

分別(フンベツ) 判断の意で、世事に関する常識的な考慮判断の能力を言う。

(フンベツ) 種類により、区別・区分すること。

末期(マッキ) 終わりの時期。

(マツゴ) 一生の最後。臨終。

無人(ムジン) 人が住んでいないこと。

(ムニン) ①ムジン。 ②人手がないこと。

利益(リエキ) 得^{とく}。もうけ。ためになること。

(リヤク) ①ためになること。 ②仏の力によって与えられる恵み。

